

県営稲屋敷・袋地区土地改良事業変更計画書

区画整理事業

（農業競争力強化農地整備事業（経営体育成型））

宮 城 県

目

第 1 章	目 的	1
第 2 章	地 域 及 び 地 積	1
第 1 節	地 域	1
第 2 節	地 積	1
第 3 章	現 況	2
第 1 節	気 象 及 び 海 象	2
1.	一 般 気 象	2
2.	特 殊 気 象	2
3.	海 象	2
第 2 節	土 地 状 況	3
1.	地形、土壌及び侵食の程度	3
2.	土 地 分 類	4
3.	土 地 利 用 の 状 況	4
4.	土 地 所 有 の 状 況	5
第 3 節	水 利 状 況	5
1.	用 水 状 況	5
2.	排 水 状 況	8
3.	河 川 状 況	11

次

第 4 節	道 路 概 況	12
1.	道 路 概 況	12
2.	主要道路一覧表	12
第 5 節	地域農業の概況	14
1.	産業別就業人口	14
2.	経営耕地広狭別農家数及び耕地の分散状況 並びに専業別農家数	14
3.	動力農機具及び主要家畜頭数	15
4.	主要作物作付状況	15
5.	農業の動向	16
第 6 節	地域環境の概況	16
第 4 章	一 般 計 画	17
第 1 節	事業計画の要旨	17
1.	要 旨	17
2.	事業別面積	17
第2節	営農計画及び土地利用計画	18
1.	営 農 計 画 の 概 要	18
2.	土 地 利 用 区 分	18

3.	作 付 方 式	19	第 6 節	農 用 地 造 成 計 画	33
4.	生 産 計 画	20	1.	農 用 地 造 成 計 画	33
5.	労 働 改 善 計 画	20	2.	土 壌 改 良	33
6.	級地別土地利用区分	21	第 7 節	洪 水 調 節 計 画	33
7.	土 地 配 分 計 画	21	1.	計 画 基 準 雨 量	33
第 3 節	用 水 計 画	22	2.	計 画 洪 水 量 及 び 調 節 量	33
1.	計 画 基 準 年	22	3.	貯 水 池	33
2.	計 画 かんがい方式	22	4.	洪 水 調 節 検 討	34
3.	計 画 用 水 系 統	23	5.	管 理 計 画	34
4.	計 画 用 水 量	24	第 8 節	干 拓 計 画	34
5.	水 源 計 画	25	第 9 節	農 用 地 整 備 計 画	35
第 4 節	排 水 計 画	27	1.	区 画 整 理	35
1.	計 画 基 準 雨 量	27	2.	暗 渠 排 水	37
2.	計 画 排 水 方 式	27	3.	客 土	37
3.	計 画 排 水 系 統	28	4.	農 地 保 全	37
4.	計 画 排 水 量	29	第 10 節	老 朽 ため 池 改 修 計 画	38
5.	排 水 対 策	30	1.	洪 水 吐 改 修 計 画	38
6.	湛 水 検 討	31	2.	堤 体 補 強 計 画	38
第 5 節	道 路 計 画	31	3.	取 水 施 設 改 修 計 画	38
1.	道 路 及 び 索 道	31			
2.	路 線 配 置 図	32			

第 5 章	主 要 工 事 計 画	39
第 1 節	用 水 施 設	39
1.	貯 水 池	39
2.	頭 首 工	39
3.	揚 水 機	39
4.	用 水 路	40
5.	その他かんがい施設	40
第 2 節	排 水 施 設	40
1.	排 水 水 門	40
2.	排 水 機	40
3.	排 水 路	41
4.	その他排水施設	41
第 3 節	道 路 及 び 索 道	41
1.	道 路	41
2.	索 道	42
第 4 節	農用地造成	42
1.	農用地造成	42
2.	土 壌 改 良	43
第 5 節	洪水調節施設	43
1.	貯 水 池	43
2.	頭首工及び導水路	43

第 6 節	干 拓 施 設	44
1.	堤 防	44
2.	潮 止 め	44
3.	付 属 施 設	44
4.	埋 立	44
第 7 節	農用地整備施設	45
1.	区 画 整 理	45
2.	暗 渠 排 水	45
3.	客 土	46
4.	除 礫	46
5.	農 地 保 全	46
第 8 節	老朽ため池改修施設	47
1.	貯 水 池	47
2.	堤体補強施設	47
第 6 章	附 帯 工 事 計 画	48
第 7 章	工事の着手及び完了の予定時期	48
第 8 章	環境との調和への配慮	48

第 9 章	換 地 計 画 の 概 要	48
第 1 節	換地計画を作成する上での基本的な考え方	48
第 2 節	換 地 区 の 設 定	48
1.	換地区の名称, 所在, 面積	48
2.	換地区を設定する理由	49
第 3 節	換地計画樹立の基本方針	49
1.	従前の土地の地積の基準	49
2.	用 途 別 予 定 地 積	49
3.	農用地集団化の方針	50
4.	非農用地換地の方法	50
第 4 節	土地の評価及び清算の方法	50
1.	評 価 の 方 法	50
2.	清 算 の 方 法	50
第 5 節	換地計画樹立の年度計画	51
第 6 節	換地処分の時期に関する特則	51
第 10 章	事業費の総額及び内訳	51
第 11 章	効 用	52
第 12 章	関 連 す る 事 業	52
第 13 章	現 況 ・ 計 画 図 面	53

※事業変更計画書の記載方法

①計画内容に変更がある場合

変更前：上段赤書き

変更後：下段黒書き

②計画内容に変更がない場合は一段で黒書き。

第 1 章 目 的

本地域は、宮城県の北部栗原市、旧栗駒町と旧鶯沢町に位置し、北側に国道457号線・南側に市道島巡祝田線と一級河川二迫川・東側には県道栗駒公園線があり、地区中心には幹線排水路である高松川（下流は一級河川熊川）が流下しており、左右岸に展開する稲作を中心とした水田地帯である。

地区内の現況ほ場は、昭和34年度に完成した団体営事業にて10a区画で整備されたが、末端水路は用排兼用水路が多く、土水路で底高も浅く常に湿潤状態を呈しており、水管理に苦慮している状況にある。また、農道幅員が狭小であることから、大型機械の導入が困難で多くの労力を必要とし、生産性が低く近代的農業経営に支障をきたしている状況にある。

そこで、本事業により、ほ場・道路・用排水路・暗渠排水等の整備を行い、耕地の汎用化・水管理の合理化を図るとともに、農地の利用集積と経営体の育成・支援を一体的に行い、効率的かつ安定的な農業の確立を目指すものである。

第 2 章 地 域 及 び 地 積

第 1 節 地 域

(第1表)

事 業 名	地 域
区画整理事業	宮城県栗原市栗駒・鶯沢

第 2 節 地 積

(令和2年8月現在)
(令和6年10月現在)

(第2表)

事 業 名	現況地目	田 (ha)	畑 (ha)	山 原 林 野 (ha)	道水路敷 (ha)	そ の 他 (ha)	計 (ha)	備 考
	市町村名							
区画整理事業	栗原市	145.9 146.0	0.1 0.1	－ －	12.4 12.4	－ －	158.4 158.5	
合 計		145.9 146.0	0.1 0.1	－ －	12.4 12.4	－ －	158.4 158.5	

第 3 章 現 況

第 1 節 気象及び海象

1. 一般気象

(第3表-1)

観測所名 観測期間	築館観測所 H17年～H26年		かんがい期 5月～8月	非かんがい期 9月～4月	計 又は平均	備 考
	平均気温(℃)		20.2	6.9	11.3	
降水量	平均(mm)	534.6	671.2	1,205.6		
	基準年(mm)	554.0	651.0	1,205.0		国営迫川上流用水基準年S42
降水日数	平均(日)	142.0	117.0	259.0		
	基準年(日)	54.0	80.0	134.0		国営迫川上流用水基準年S42
根雪期間			11月30日～3月23日 114日間			
無霜期間			4月13日～11月3日 205日間			
最多風向			W	最大風速 (風向)	- m/s (-)	最多風向発生時期 -月～-月 最大風速発生年月日 -

2. 特殊気象

(第3表-2)

観測所名 築館観測所 観測期間 H18年～H26年	第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位			第 5 位			備 考
	数量	年月日	発生率	数量	年月日	発生率	数量	年月日	発生率	数量	年月日	発生率	数量	年月日	発生率	
最大日雨量 (mm)	335	S23.9.16	1/2268	194	S19.7.19	1/69	159	H25.7.26	1/25	154	H21.10.8	1/21	153	S61.8.5	1/21	
最大2日連続 雨量(mm)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
最大3日連続 雨量(mm)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
最大連続 雨量(mm)	346	S23.9.15	1/77	324	S19.7.18	1/53	318	S31.6.15	1/47	304	S33.7.19	1/37	273	S22.9.7	1/21	
最大連続早天 日数(日)	65	H25.1.28	1/69	60	S28.1.1	1/39	59	S62.1.18	1/35	54	H11.1.1	1/19	53	S62.3.25	1/17	

3. 海 象

該当なしに付き省略

(第3表-3)

観測所名	観測期間	既往最高 潮位(m)	さく望平 均満潮位(m)	上下弦平 均満潮位(m)	平均潮位 (m)	上下弦平 均干潮位(m)	さく望平 均干潮位(m)	既往最低 潮位(m)	備 考
実 測 値	年～年								

第 2 節 土 地 状 況

1. 地形、土壌及び侵食の程度

(第4表-1-1)

事業名	地 目 傾 斜 区 分	田						畑 ・ そ の 他								受益地標高(m)		備考
		1/1,000	1/1,000 ～	1/300 ～	1/100 ～	1/20	計	3° 以下	3° ～8°	8° ～15°			15° ～ 20°	20° 以 上	計	最 高	最 低	
		以 下	1/300	1/100	1/20	以 上				8° ～ 10°	10° ～ 15°	8° ～ 15°						
区画整理事業	面 積 (ha)	19.5	73.1	53.0	0.3	－	145.9	0.1	－	－	－	－	－	－	0.1	T.P 29.44m	T.P 22.81m	
		19.5	73.2	53.0	0.3	－	146.0	0.1	－	－	－	－	－	0.1				
	比 率 (%)	13.4	50.1	36.3	0.2	－	100.0	100.0	－	－	－	－	－	－	100.0			
合 計	面 積 (ha)	19.5	73.1	53.0	0.3	－	145.9	0.1	－	－	－	－	－	－	0.1	－	－	
		19.5	73.2	53.0	0.3	－	146.0	0.1	－	－	－	－	－	0.1				
	比 率 (%)	13.4	50.1	36.3	0.2	－	100.0	100.0	－	－	－	－	－	－	100.0			

(第4表-1-2)

項 目 土 壤 統 (区) 名	土 壤 統 (区) 区 分 一 覧 表										面 積 (ha)	備 考
	色	土 壤 断 面							堆 積 様 式	母 材		
		腐 植 層	礫 層	酸 化 沈 澱 物	土 性			泥 炭 層 及 グ ラ イ 層				
					表 土		下 層 土					
					一 層	二 層						
泥 炭 土 壤 型 強 粘 土 還 元	黒	含む	なし	なし	HC	HC	CL	泥 炭 層	沖積	—	11.6 (-) 11.6 (-)	A2
強 グ ラ イ 土 壤 型 粘 粘 土 還 元	黄 灰	なし	なし	含む	HC	HC	SiL	グ ラ イ 層	沖積	—	40.1 (-) 40.2 (-)	D30
強 グ ラ イ 土 壤 型 強 粘 土 斑 鉄	灰	含む	なし	なし	LiC	HC	HC	グ ラ イ 層	沖積	—	41.6 (-) 41.6 (-)	D31
グ ラ イ 土 壤 土 型	灰	なし	なし	含む	CL	L	SiL	グ ラ イ 層	沖積	—	1.4 (-) 1.4 (-)	E43
灰 色 土 壤 型 粘 土 マ ン ガ ン	暗灰黄	なし	なし	含む	HC	HC	HC	グ ラ イ 層	沖積	—	51.2 (0.1) 51.2 (0.1)	F51
計											145.9 (0.1) 146.0 (0.1)	()は畑

該当なしに付き省略												(第4表-1-3)
事業名	区分	土 壌 の 流 亡 率				年 平 均 流 亡 速 度				ガリ侵食の程度		備 考
		0	0～25%	25～50%	50%以上	0	3mm未満	3～5mm	5mm以上	中 程 度 の	大 な る の	
	面積(ha) 比率(%)											

2. 土地分類

該当なしに付き省略												(第4表-2-1)	
級 地 別 市町村名	農 用 地 造 成											計 (ha)	備 考
	一級地 (ha)	二 級 地				三 級 地				四 級 地			
	※ (ha)	3° ~ 8° (ha)	8° ~ 12° (ha)	12° ~ 15° (ha)	※ (ha)	15° ~ 20° (ha)	20° ~ 25° (ha)	25° ~ 30° (ha)	※ (ha)	30° 以上 (ha)			
												※は傾斜以外の要因によるもの	

該当なしに付き省略						(第4表－2－2)
級 地 別 市町村名	干			拓		備 考
	一 級 地 (ha)	二 級 地 (ha)	三 級 地 (ha)	四 級 地 (ha)	計 (ha)	

3. 土地利用の状況

(令和2年8月現在) (令和6年10月現在) (第4表-3)														
事業名	土地利用別 市町村別	耕 地						山 林		採 草 放牧地 (ha)	原 野 (ha)	そ の 他 (ha)	計 (ha)	備 考
		水 田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	茶 園 (ha)	そ の 他 樹 園 地 (ha)	用材林 (ha)	薪炭林 (ha)					
区画整理事業	栗 原 市	145.9 146.0	0.1 0.1	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	12.4 12.4	158.4 158.5	
合 計		145.9 146.0	0.1 0.1	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	12.4 12.4	158.4 158.5	

4. 土地所有の状況

(令和2年8月現在)

(令和6年10月現在)

(第4表-4)

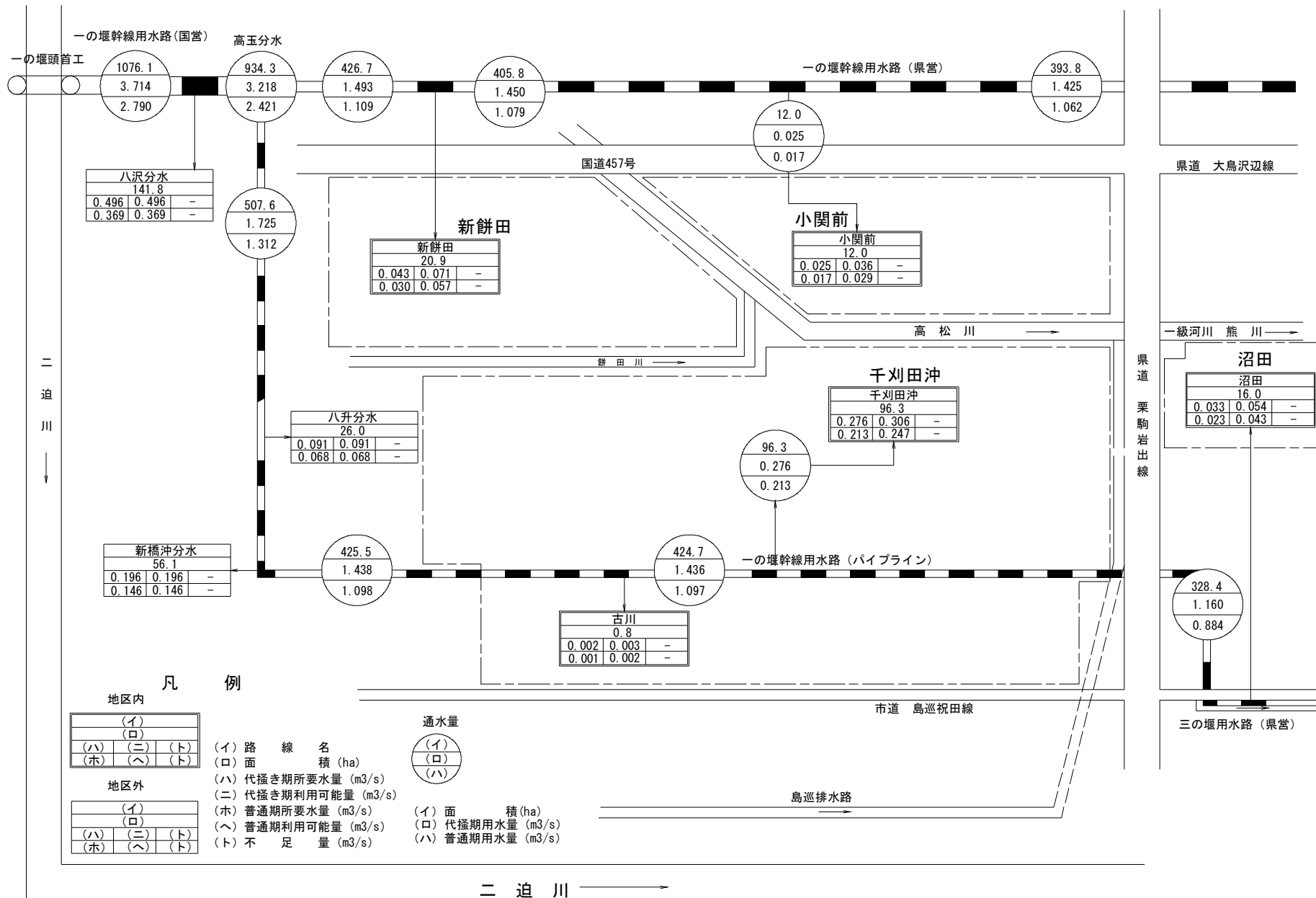
事業名	所有別 区分	個人有	市町村有	県有	国有	その他	改良区等	計	備考
区画整理事業	面積 (ha)	146.0 146.1	12.4 12.3	0.0 0.0	0.0 0.1	- -	- -	158.4 158.5	
	受益者数 (人)	160 136	-	-	-	-	-	-	
	筆数 (筆)	1,749 1,748	294 297	1 5	9 12	- -	- -	2,053 2,062	
	権利関係	所有権等	-	-	-	-	-	-	
	備考 (関係戸数)	160 173	-	-	-	-	-	-	
合 計	面積 (ha)	146.0 146.1	12.4 12.3	0.0 0.0	0.0 0.1	- -	- -	158.4 158.5	
	受益者数 (人)	160 136	-	-	-	-	-	-	
	筆数 (筆)	1,749 1,748	294 297	1 5	9 12	- -	- -	2,053 2,062	
	権利関係	所有権等	-	-	-	-	-	-	
	備考 (関係戸数)	160 173	-	-	-	-	-	-	

第 3 節 水 利 状 況

1. 用水状況

本地区の用水は、二迫川上流に国営かんがい排水事業迫川上流地区により、荒砥沢ダムが設置されており、下流の一の堰頭首工から取水し、地区北側は一の堰幹線用水路及び二迫地区を経由してかんがいされている。地区南側は一の堰幹線用水路及び国営附帯県営かんがい排水事業迫川上流4期地区（一の堰用水路）経路によりかんがいが行われている。地区内の用水路は浅い土水路が殆どで、水管理を行う上で多大な支障をきたしている状況にある。

(1) 用水系統



(2) 用水施設
(ア) 取水方法一覧表

(第5表-1)

事業名	項目 施設名	かんがい面積						計		水利権		慣行水利権		延べ取水量	備考
		500 ha以上		500 ～ 100ha		100 ha 未満									
		箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	m³/s	箇所	m³/s	m³/s	
区画整理事業	貯水池	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	井堰	1	1,076.1 (145.9)	-	-	-	-	1	1,076.1 (145.9)	1	3.714 (0.471)	-	-	3.714 (0.471)	一の堰頭首工
		1	1,076.1 (146.0)	-	-	-	-	1	1,076.1 (146.0)	1	3.714 (0.470)	-	-	3.714 (0.470)	
	自然取入口	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	揚水機	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
合計		1 1	1,076.1 (145.9) 1,076.1 (146.0)	-	-	-	-	-	1,076.1 (145.9) 1,076.1 (146.0)	1 1	3.714 (0.471) 3.714 (0.470)	-	-	3.714 (0.471) 3.714 (0.470)	

()は本地区分

(イ) 改修を要する施設一覧表

(第5表-2)

事業名	項目 施設名	施設名 又は 箇所数	受益面積 (ha)	構造	規模	新設年又は 更新年	改修を必要とする理由	備考
区画整理事業	貯水池	-	-	-	-	-	-	
	井	-	-	-	-	-	-	
	自然取入口	-	-	-	-	-	-	
	揚水機	-	-	-	-	-	-	
	用水路	-	145.9 146.0	土水路	L=12,337m L=12,337m	S34	漏水、用排分離	
	その他	-	-	-	-	-	-	
合計		- -	145.9 146.0	- -	L=12,337m L=12,337m	- -	- -	

(3) 用水に関する被害状況

(ア) 用水不足による被害状況
該当なしに付き省略

(第5表-3-1)

事業名	項目 系統名	かんがい 面積 (ha)	現況 必要水量 (千m³)	不足水量				平均減産量		備考
				かんがい期最大不足水量		かんがい期総不足水量				
	平均 (m³/s)	基準年 (m³/s)	平均 (千m³)	基準年 (千m³)	作物名	減産量(t)				

(イ) その他の被害状況
該当なしに付き省略

(第5表-3-2)

事業名	時期別	かんがい 面積 (ha)	水温(°C)		水質	被害量 (t)	備考
			最高	最低			

(4) ため池決壊の場合の想定被害状況
該当なしに付き省略

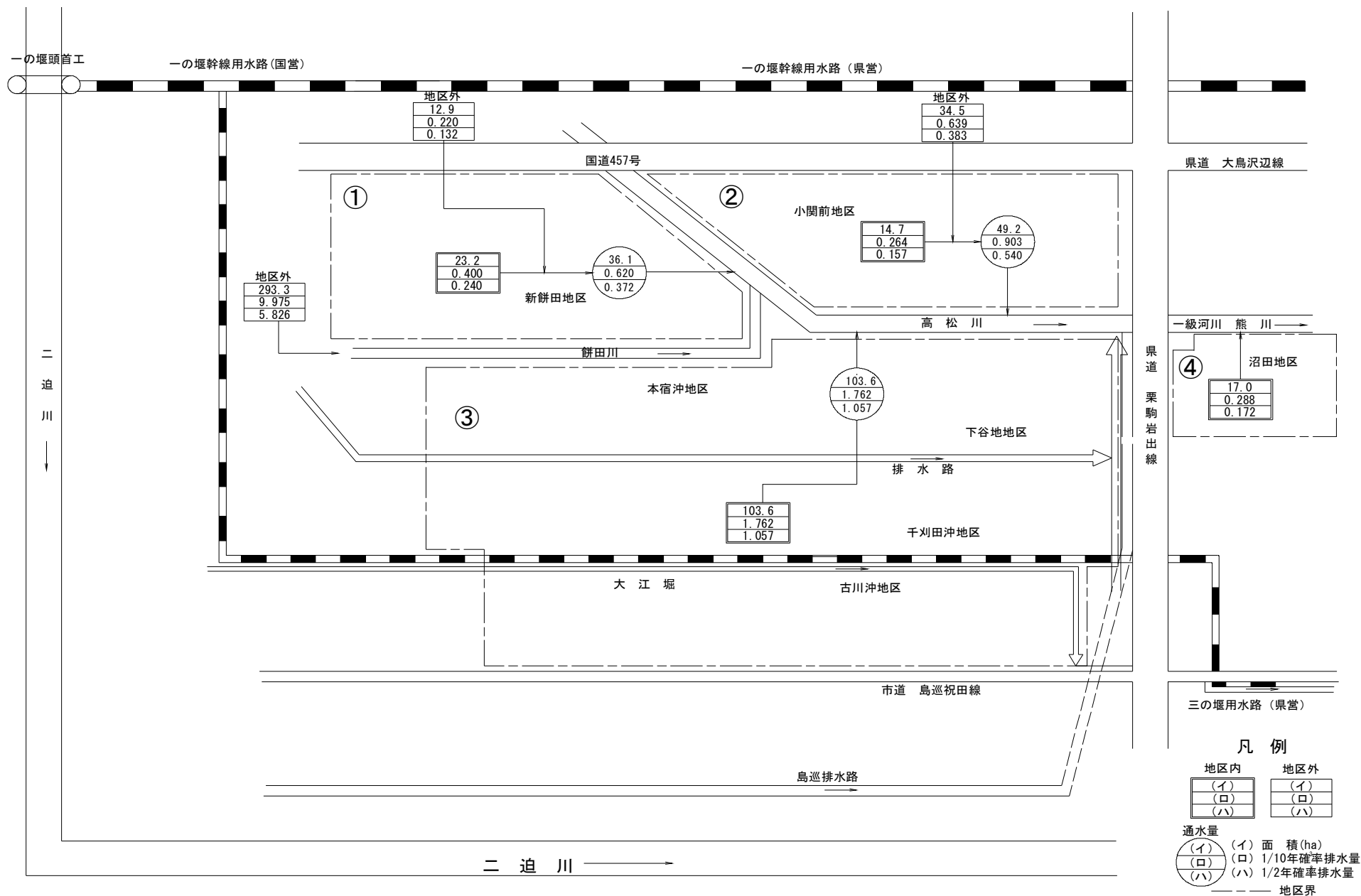
(第5表-3-3)

事業名	想定被害面積(ha)				被害想定額(百万円)						備考
	田	畑	その他	計	作物	農地	農業用 施設	公共 施設	家屋 その他	計	

2. 排水状況

本地区の排水は、地区南側に位置する島巡排水路及び大江堀排水路、北西部側の餅田川等を経由し一級河川熊川に自然排水されている。
地区内の排水路は土水路が殆どで、水路底も浅く排水性が悪く湿潤状態のため、汎用化耕地として支障をきたしている。

(1) 排水系統



(2) 排水施設

(ア) 排水方法一覧表

(第5表-4)

事業名	項目 施設名		排水面積						計		排水慣行 (m³/s)	現況排水能力 (m³/s)	備考
			500 ha 以上		500 ~100ha		100 ha 未満						
	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha					
区画整理事業	自然	排水路	-	-	2	499.0 (158.4)	-	-	2	499.0 (158.4)	3.57	3.57	熊川(一級河川) 高松川
			-	-	2	499.0 (158.5)	-	-	2	499.0 (158.5)			
	機械	水門	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		排水機	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		水門及び排水機	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		排水路及び排水機	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
合計			-	-	2	499.0 (158.4)	-	-	2	499.0 (158.4)	3.57	3.57	
			-	-	2	499.0 (158.5)	-	-	2	499.0 (158.5)			

()は本地区分

(イ) 改修を要する施設一覧表

(第5表-5)

事業名	項目		施設名 又は 箇所数	受益面積 (ha)	構造	規模	新設年又は 更新年	改修を必要とする理由	備考
	施設名								
区画整理事業	自然	排水路	-	158.4 158.5	土水路、HF	L=14,426m L=10,986m	S34	老朽化、漏水 用排水分離	-
		水門	-	-	-	-	-		
	機械	排水機	-	-	-	-	-	-	-
		水門及び 排水機	-	-	-	-	-		
		排水路及び 排水機	-	-	-	-	-		
	合計				158.4 158.5		L=14,426m L=10,986m		

(3) 排水に関する被害状況

該当なしに付き省略

(第5表-6)

事業名	項目 系統名	排水面積 (ha)	降水量 (mm)		湛水状況				乾湿状況 (ha)						平均減産量		備考
					湛水深 (cm)	湛水時間 (hr)	湛水面積 (ha)	湛水量 (千m ³)	田		畑		その他		作物名	減産量 (t)	
			平均 基準年						乾	湿	乾	湿	乾	湿			

3. 河川状況

(1) 河川状況

該当なしに付き省略

(第5表-7)

河川名	項目 流路状況	勾配	断面	計画洪水量 (m ³ /s)	既往最大洪水量 (m ³ /s)	備考

(2) 洪水に関する被害状況

該当なしに付き省略

(第5表-8)

区分	項目 農用地 (百万円)	農用施設 (百万円)	作物 (百万円)	公共施設 (百万円)	備考
過去の最大被害額					
平均被害額					

第 4 節 道 路 概 況

1. 道路概況

本地区の道路状況は、北側に国道457号線が走り、南側には市道島巡祝田線が走っている。これらを結ぶように東側には県道栗駒岩出山線が南北に走っている。また、地区中央には農道上谷地線が東西に走り、幹線道路として活用されているなど、物流や集落を結ぶ道路は整備されている。地区内の農道にあたっては、幅員1.8m～3.5m程度と狭く未舗装であり、耕作・運搬・営農機械の搬入等に多大な支障をきたしている状況である。

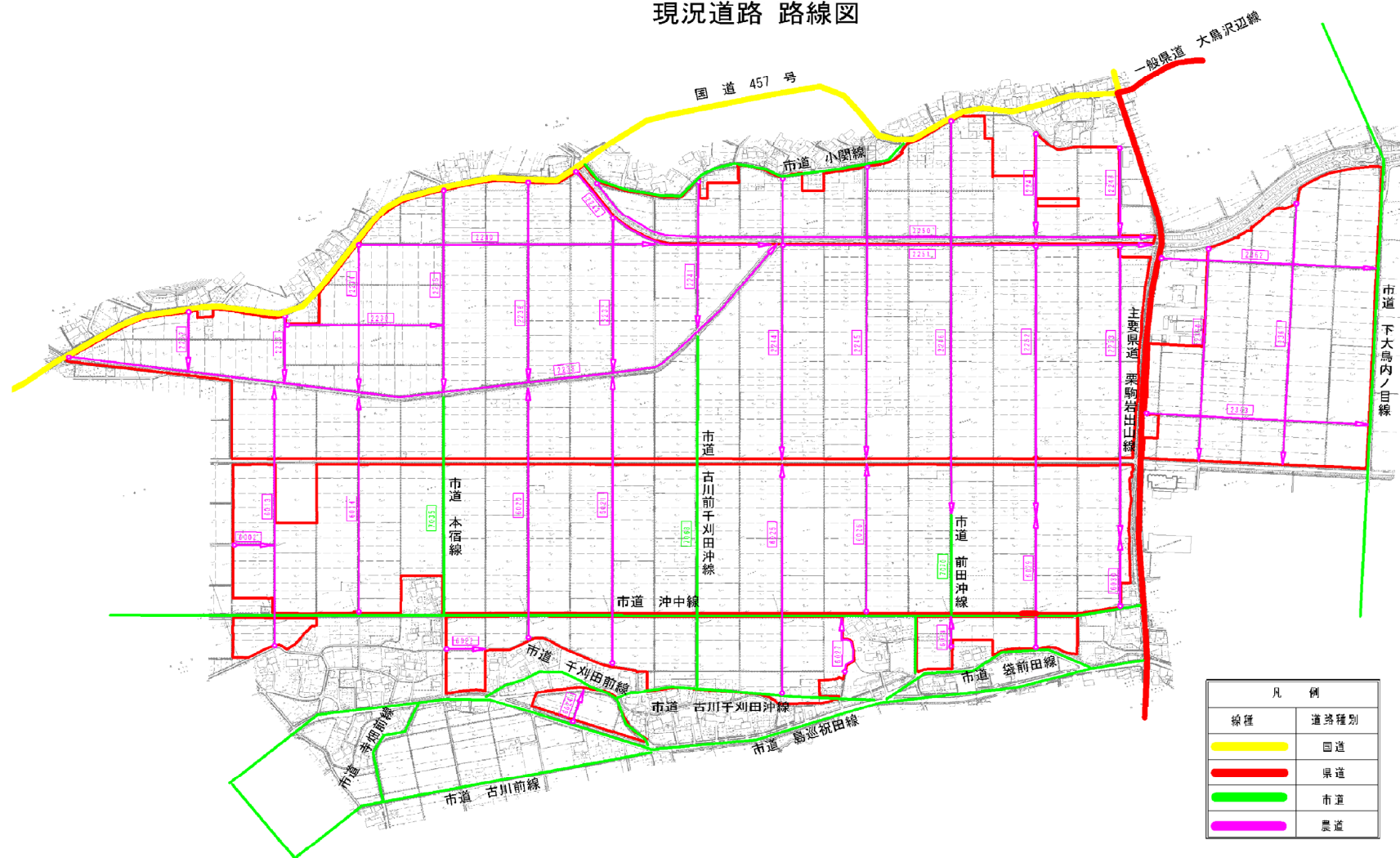
2. 主要道路一覧表

(第6表)

NO.	路 線 名	管 理 区 分 別	延 長 (m)	幅 員 (m)		構 造	改 修 の 要 否	備 考
				全 幅	有 効			
1	市道	栗原市	804	3.0	2.5	アスファルト舗装	要	市道本宿線・市道古川前千刈田沖線
2	市道	栗原市	411	3.0	2.5	砂利道	要	市道古川前千刈田沖線・市道前田沖線
3	農道	栗原市	14,223	1.8～3.5	1.3～2.5	砂利道	要	
	計	-	15,438	-	-	-	-	

主要道路現況図

現況道路 路線図



第 5 節 地域農業の概況

1. 産業別就業人口

(平成27年版 宮城県統計年鑑による)
(令和5年版 宮城県統計年鑑による)

(第7表-1)

項 目 市町村名	総 数 (人)	農 業 (人)	林 業 (人)	漁 業 (人)	鉱 業 (人)	建 設 業 (人)	製 造 業 (人)	電 気 給 水 道 業 (人)	情 報 通 信 業 (人)	運 輸 業 (人)	卸 売 小 売 業 (人)	金 融 保 険 業 (人)	不 動 産 業 (人)	宿 飲 泊 食 業 店 (人)	医 療 福 祉 社 (人)	教 育 学 習 所 (人)	サ ー ビ ス 業 (人)	公 務 員 (人)	そ の 他 (人)	備 考
栗原市	34,655 33,219	5,010 4,734	144 177	16 14	16 7	3,332 3,281	6,392 5,926	118 94	141 99	1,477 1,439	4,858 4,192	495 354	152 206	1,308 1,225	3,937 4,798	1,447 1,315	3,888 4,114	1,359 1,244	565 -	
計	34,655 33,219	5,010 4,734	144 177	16 14	16 7	3,332 3,281	6,392 5,926	118 94	141 99	1,477 1,439	4,858 4,192	495 354	152 206	1,308 1,225	3,937 4,798	1,447 1,315	3,888 4,114	1,359 1,244	565 -	
比 率 (%)	100 100	15 14	0 1	0 0	0 0	10 10	19 18	0 0	0 0	4 4	14 13	1 1	0 1	4 4	12 14	4 4	11 12	4 4	2 -	

2. 経営耕地広狭別農家数及び耕地の分散状況並びに専業別農家数

(2015年農林業センサスによる)
(2020年農林業センサスによる)

(第7表-2)

項 目 市 町 村 名	農 家 総 戸 数 (戸)	経 営 耕 地 広 狭 別 農 家 数 (戸)												1 戸 当 た り 平 均 農 用 地 面 積 (ha)						耕 地 の 分 散 状 況		専 兼 業 別 農 家 数 (戸)			備 考
		規 定 外 農 家 自 給 的 0.3 未 満 規 定 な し 經 営 耕 地	0.3 ~ 0.5	0.5 ~ 1.0	1.0 ~ 1.5	1.5 ~ 2.0	2.0 ~ 3.0	3.0 ~ 5.0	5.0 ~ 10.0	10.0 ~ 20.0	20.0 以 上	田	畑	樹 園 地	小 計	草 地	計	1 戸 当 た り 団 地 数	団 地 面 積 (ha)	専 業	兼 業				
																					第 一 種	第 二 種			
栗原市	5,491 4,449	61 62	39 37	481 346	1,163 910	1,020 811	742 632	904 686	568 472	309 259	118 149	86 85	2.64 2.94	0.07 0.20	0.01 0.01	2.72 3.15	0.12 0.11	2.84 3.26	- -	- -	1,206 -	746 -	3,394 -		
計	5,491 4,449	61 62	39 37	481 346	1,163 910	1,020 811	742 632	904 686	568 472	309 259	118 149	86 85	2.64 2.94	0.07 0.20	0.01 0.01	2.72 3.15	0.12 0.11	2.84 3.26	- -	- -	1,206 -	746 -	3,394 -		
比 率 (%)	100 100	1 1	1 1	9 8	21 21	19 18	14 14	16 15	10 11	6 6	2 3	1 2	93 90	3 6	0 0	96 96	4 4	100 100	- -	- -	22 -	14 -	62 -		

2020年農林業センサスにおいて、専業・第1種兼業・第2種兼業農家数の調査は行われていないため記載省略

3. 動力農機具及び主要家畜頭数

(2015年農林業センサスによる)

(2020年農林業センサスによる)

(第7表-3)

項 目 市 町 村 名	動 力 農 機 具							主 要 家 畜								備 考	
	トラクター		田 植 機		自脱型コンバイン		乳 用 牛		肉 用 牛		豚		鶏				
	数 量 (台)	戸 数 (戸)	数 量 (台)	戸 数 (戸)	数 量 (台)	戸 数 (戸)	数 量 (頭)	戸 数 (戸)	数 量 (頭)	戸 数 (戸)	数 量 (頭)	戸 数 (戸)	数 量 (羽)	戸 数 (戸)			
栗原市	5,825	4,520	3,980	3,843	2,748	2,615			2,109	97	9,936	753	31,787	15	5,463	13	2020年農林業センサス においては、動力農機 具の調査が行われてい ないため記載省略
	-	-	-	-	-	-			1,752	56	8,289	601	26,231	10	8,216	8	
計	5,825	4,520	3,980	3,843	2,748	2,615			2,109	97	9,936	753	31,787	15	5,463	13	
	-	-	-	-	-	-			1,752	56	8,289	601	26,231	10	8,216	8	
100戸当たり数量 (台、頭)	106		73		50				38		181		579		100		
	-		-		-				39		186		590		185		
利用戸数割合 (%)	82		70		48				2		14		0		0		
	-		-		-				1		14		0		0		

4. 主要作物作付け状況

記載データ無しに付き省略

(第7表-4)

市 町 村 名		計						平 均	作 付 率 (%)	備 考
総 耕 地 面 積 (ha)										
総 本 地 面 積 (ha)										
区 分 作 物 名		作付面積 (ha)	単 位 面 積 当たり収量 (Kg/10a)	作付面積 (ha)	単 位 面 積 当たり収量 (Kg/10a)	作付面積 (ha)	単 位 面 積 当たり収量 (Kg/10a)	作付面積 (ha)	単 位 面 積 当たり収量 (Kg/10a)	
		(ha)	(Kg/10a)	(ha)	(Kg/10a)	(ha)	(Kg/10a)	(ha)	(Kg/10a)	
田	水 稲									
	そ の 他									
	小 計									
畑	野 菜 類									
	そ の 他 作 物									
	小 計									
樹 園 地	果 樹									
	小 計									
計										
市 町 村 別 延 べ 作 付 率 (%)										

5. 農業の動向

(2015年農林業センサスによる)
(2020年農林業センサスによる)

(第7表-5)

項 目 区 分	農 家			土 地			主 要 作 物			大 家 畜			動 力 農 機 具			地域指定等	備 考
		B	A 現在		B	A 現在	作 物 名	B	A 現在	家 畜 名	B	A 現在	農 器 機 名	B	A 現在		
変化の状況 C年を100とする指数	総農家数	84 79	66 64	耕 地	94 104	98 95	米	92 108	99 108	乳 用 牛	83 89	74 74	トラクター	89 -	76 -	農業振興地域整備計画 地域指定 H21.12 許可 H21.12 農業経営基盤の強化の 促進に関する基本的な 構想 H28年度 栗原市農業ビジョン H28年度 栗原市酪農・肉用牛正 産近代化計画書 H27年度 野菜指定団地 H17年度 園芸振興計画 H23年度	A : H27年 A : R2年 B : H22年 B : H27年 C : H17年 C : H22年
	専 業 農 家 数	119 -	110 -	田	93 107	99 99	麦 類	200 -	0 -	肉 用 牛	103 81	84 68	田 植 機	85 -	67 -		
	第一種兼 業農家数	58 -	66 -	畑	71 72	51 164	豆 類	167 263	439 311	豚	173 755	1,306 623	コンバイン	85 -	73 -		
	第二種兼 業農家数	83 -	57 -	樹 園 地	93 73	68 71	野 菜 類	108 -	101 -	採 卵 鶏	8,040 1,359	1,093 2,044					
	農 業 従 事 者 数	83 71	59 54	草 地	138 85	118 65	果 樹 類	0 -	68 -								
変 化 の 理 由	他産業への移行および、大規模農家への作業委託が進み農家数の減少。 【2020年農林業センサスにおいて、専業・第1種兼業・第二種兼業農家数の調査は行われていない。】			畑の大幅な拡大はあるものの耕地としては減少をしている。			集団転作の推進による豆類の大幅な作付け増。 【2020年農林業センサスにおいて、麦類・野菜類・果樹類の調査結果は大半の市町村が公表されていない。】			高齢化や大規模農家との価格競争などが要因と思われる。			-			【2020年農林業センサスにおいて、動力農機具の調査は行われていない。】	

第 6 節 地域環境の概況

本地区の地区内の用排水路は、ミナミメダカ、ドジョウ、アブラハヤ、タモロコなど6科13種の魚類、両生類等では、トウキョウダルマガエル、ニホンアマガエルなど2科3種、その他ハグロトンボ、アキアカネなど4科79種の生物が生息している。植物は被子植物など57科218種が生息しており、豊かな自然を有する地域である。

第 4 章 一 般 計 画

第 1 節 事業計画の要旨

1. 要 旨

本地区の現況ほ場は、10a区画で整備されているが、末端水路は用排兼用の土水路で底高も浅く利水・維持管理に苦慮している。農道は極めて狭小のため、大型農業機械の導入や営農の省力化等近代化農業に向け支障をきたしている状況にある。

このような状態を改善するため、区画の再整理、道路、用排水路、暗渠排水等の整備を行い、耕地の汎用化、水管理の合理化を図るとともに、農地の利用集積と経営体の育成・支援を一体的に行い、効率的かつ安定的な農業の確立を目指すものである。

2. 事業別面積

(第8表)

事業名 土地利用 区分 事業目的	区画整理事業												計 (ha)	備 考
	水 田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	その他 (ha)	小 計 (ha)	水 田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	…… (ha)	小 計 (ha)		
区画整理	144.9 143.2	0.0 0.1	- -	- -	- -	144.9 143.3	- -	- -	- -	- -	- -	- -	144.9 143.3	
暗渠排水	144.9 143.2	- -	- -	- -	- -	144.9 143.2	- -	- -	- -	- -	- -	- -	144.9 143.2	
計	144.9 143.2	0.0 0.1	- -	- -	- -	144.9 143.3	- -	- -	- -	- -	- -	- -	144.9 143.3	

第 2 節 営農計画及び土地利用計画

1. 営農計画の概要

(1) 経営方式

本地区は、水稻・飼料作物を基幹とした経営を行い、担い手農家等への農地の利用集積を図り、機械共同利用等により経営規模の拡大を図るとともに大型機械の導入によりコストの低減を図る。

(2) 経営組織及び作業体系

農地の集団化を図り、大型機械の共同利用を進めるとともに、利用権設定若しくは作業委託により農地を担い手農家等に集約し、農業経営の安定を図る。

2. 土地利用区分

(第9表－1)

事業名	土地利用区分		水田	普通畑	牧草畑	果樹園	茶園	その他	小計	原野	山林	その他	計	備考
	区	分	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	
区画整理事業	現	況	145.9	0.1	－	－	－	－	146.0	－	－	12.4	158.4	
			146.0	0.1	－	－	－	－	146.1	－	－	12.4	158.5	
	計	画	144.9	0.0	－	－	－	－	144.9	－	－	13.5	158.4	
			143.2	0.1	－	－	－	－	143.3	－	－	15.2	158.5	
	現	況												
	計	画												
計	現	況	145.9	0.1	－	－	－	－	146.0	－	－	12.4	158.4	
			146.0	0.1	－	－	－	－	146.1	－	－	12.4	158.5	
	計	画	144.9	0.0	－	－	－	－	144.9	－	－	13.5	158.4	
			143.2	0.1	－	－	－	－	143.3	－	－	15.2	158.5	

3. 作付方式

(第9表-2)

事業名	項目	経営 類型	土地 利用 区分	1 年 目												2 年 目												3 年 目												備考
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
区 画 整 理 事 業	現 況	水稲 ＋ 飼料作物 ＋ 野菜	田	水 稲												水 稲												水 稲												
				飼 料 用 米												飼 料 用 米												飼 料 用 米												
				大 豆												大 豆												大 豆												
				牧 草												牧 草												牧 草												
				ね ぎ												ね ぎ												ね ぎ												
	かぼちゃ												かぼちゃ												かぼちゃ															
	計 画	水稲 ＋ 飼料作物 ＋ 野菜	田	水 稲												水 稲												水 稲												
				飼 料 用 米												飼 料 用 米												飼 料 用 米												
				W C S 用 稲												W C S 用 稲												W C S 用 稲												
				に ら												に ら												に ら												

4. 生産計画

(第9表-3)

事業名	項 目 土地 利用区分	作物名	作 付 面 積 (ha)			作 付 率 (%)		単位面積当たり収量 (kg/10a)			生 産 量 (t)			同 左 生 産 量 増 減 の 内 訳 (t)		備 考
			現 況	計 画	増 減	現 況	計 画	現 況	計 画	増 減	現 況	計 画	増 減	面積増減	単位面積 当たり 収量増加	
区 画 整 理 事 業	水	水 稲	93.7 93.0	93.7 87.8	- △5.2	68 65	67 62	546 543	557 567	11 24	511.6 505.0	521.9 498.3	10.3 △6.7	- △28.2	10.3 21.5	
		飼 料 用 米	6.3 6.4	19.2 21.3	12.9 14.9	4 5	13 15	546 543	557 551	11 8	34.4 34.8	105.5 118.5	71.1 83.7	70.4 82.1	0.7 1.6	
		大 豆	0.3 0.3	8.2 -	7.9 △0.3	0 0	6 -	157 135	157 135	- -	0.5 0.4	12.9 -	12.4 △0.4	12.4 △0.4	- -	
		牧 草	2.0 1.9	14.8 -	12.8 △1.9	1 1	10 -	887 748	887 748	- -	17.7 14.2	131.2 -	113.5 △14.2	113.5 △14.2	- -	
		WCS 用 稲	- -	- 32.0	- 32.0	- -	- 23	- 1,782	- 1,782	- -	- -	- 570.2	- 570.2	- 570.2	- -	
		調 整 水 田	40.0 40.8	- -	△40.0 △40.8	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	
		ね ぎ	0.4 0.4	2.0 -	1.6 △0.4	0 0	1 -	1,398 1,532	1,398 1,532	- -	5.6 6.1	28.0 -	22.4 △6.1	22.4 △6.1	- -	
		か ぼ ち や	0.1 0.1	4.8 -	4.7 △0.1	0 0	3 -	921 746	921 746	- -	0.9 0.7	44.2 -	43.3 △0.7	43.3 △0.7	- -	
	普通 畑	ね ぎ	0.1 0.1	0.0 -	△0.1 △0.1	0 0	0 -	1,398 1,532	1,398 1,532	- -	1.4 1.5	0.1 -	△1.3 △1.5	△1.3 △1.5	- -	
		に ら	- -	- 0.1	- 0.1	- -	- 0	- 1,399	- 1,399	- -	- -	- 1.4	- 1.4	- 1.4	- -	
	合 計		142.9 143.0	142.7 141.2	△0.2 △1.8	73 71	100 100	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	

5. 労働改善計画

(第9表-4)

事業名	項目 土地 利用区分	作物名	作付面積 (ha)	単位面積当たり労働投下量 (hr/ha)				備考
				区分	現況	計画	増減	
区画整理事業	水田	水稲	93.7	人 力	165.8 160.1	132.6 124.1	△33.2 △36.0	
			87.8	機 械 力	64.1 66.4	56.3 48.2	△7.8 △18.2	
		飼料用米	19.2	人 力	166.1 169.8	137.4 127.7	△28.7 △42.1	
			21.3	機 械 力	64.6 84.3	59.7 55.2	△4.9 △29.1	
		WCS用稲	-	人 力	- 128.6	- 101.9	- △26.7	
			32.0	機 械 力	- 31.6	- 20.2	- △11.4	
		大豆	8.2	人 力	139.4 -	24.5 -	△114.9 -	
			-	機 械 力	100.4 -	17.8 -	△82.6 -	
		牧草	14.8	人 力	91.2 -	55.1 -	△36.1 -	
			-	機 械 力	91.2 -	55.1 -	△36.1 -	
		ねぎ	2.0	人 力	6,740.0 -	6,702.0 -	△38.0 -	
			-	機 械 力	280.0 -	242.0 -	△38.0 -	
		かぼちゃ	4.8	人 力	4,647.0 -	4,560.0 -	△87.0 -	
			-	機 械 力	567.0 -	480.0 -	△87.0 -	
	畑	ねぎ	0.0	人 力	34.0 -	34.0 -	- -	
			-	機 械 力	1.0 -	1.0 -	- -	
		にら	-	人 力	- 5,842.9	- 5,840.1	- △2.8	
			0.1	機 械 力	- 172.9	- 170.1	- △2.8	
合 計			142.7 141.2		-	-	-	

6. 級地別土地利用区分

該当なしに付き省略

(第9表-5)

区 分 級 地 別		農 用 地 造 成 (ha)					干 拓 (ha)					合 計
		一級地	二級地	三級地	四級地	計	一級地	二級地	三級地	四級地	計	
土 地 利 用 区 分												
農 地	田											
	輪 換 耕 地											
	畑											
	(普 通 畑)											
	(牧 草 畑)											
	樹 園 地											
	(果 樹 園)											
	(桑 園)											
そ の 他												
計												

7. 土地配分計画

該当なしに付き省略

(第9表-6)

項 目 区 分		配 分 戸 数 (戸)	地 目 別 配 分 計 画 (ha)							備 考
			田	輪換耕地	普通畑	牧草畑	樹園地		計	
増	反		()	()	()	()	()	()	()	
入	植		()	()	()	()	()	()	()	

第 3 節 用 水 計 画

1. 計画基準年

国営かんがい排水事業「迫川上流地区」の計画諸元に基づき、昭和42年を計画基準年とする。

かんがい期有効雨量	311.0 mm	(1/10)
連続旱天日数	- 日	(/ -)
河川渇水位	- m3/s	(/ -)

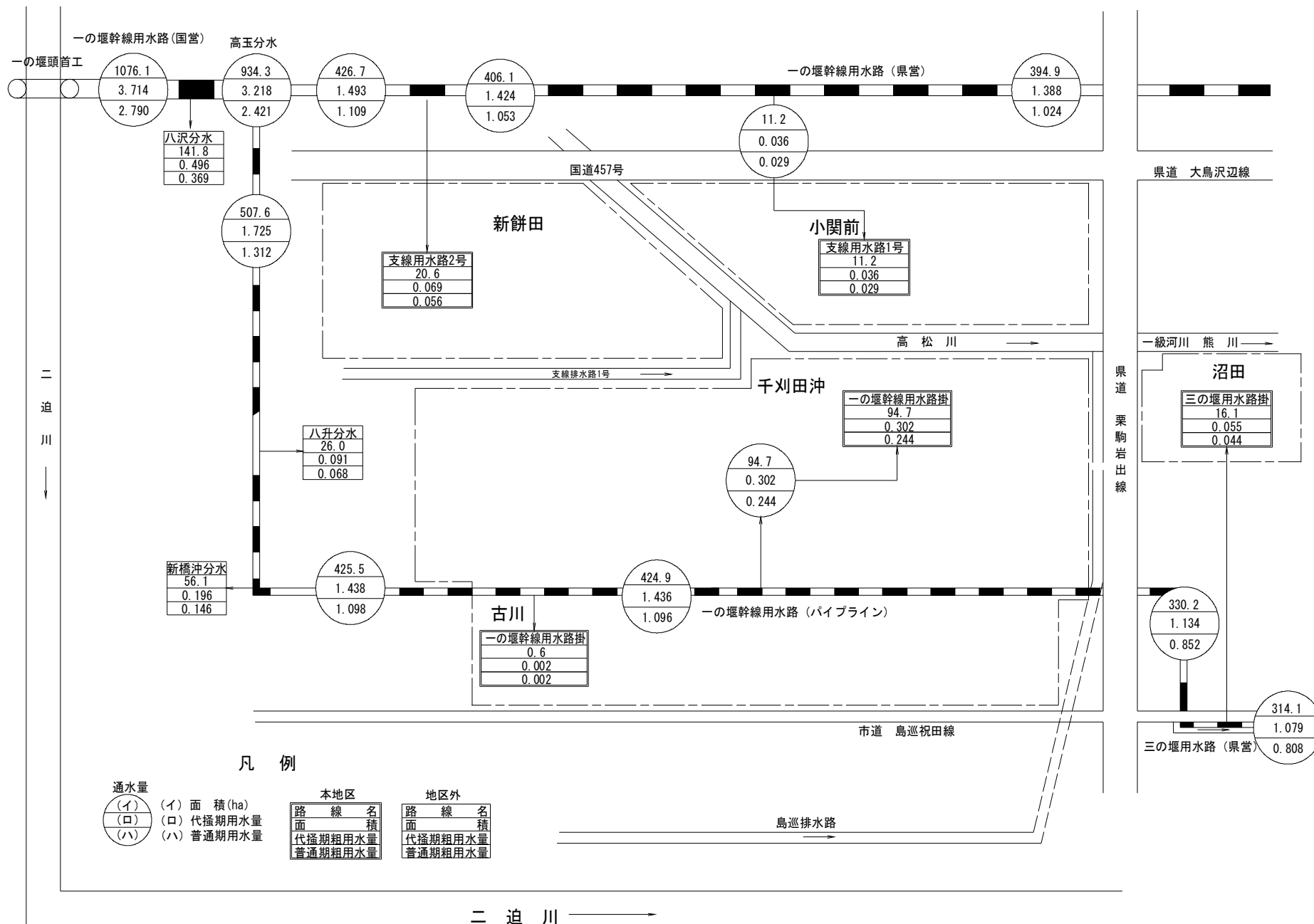
2. 計画かんがい方式

水 田 水 稲	・ ・ ・ ・ ・	湛水かんがい	かんがい期間	138 日	4 月 26 日	～	9 月 10 日
畑 地	・ ・ ・ ・ ・	うね間かんがい	(代掻期間	15 日	4 月 26 日	～	5 月 10 日)

本地区の用水は、一級河川北上川水系二迫川を水源とする国営一の堰頭首工から取水し、「国営かんがい排水事業迫川上流地区」「県営かんがい排水事業迫川上流4期地区」で整備された幹・支線用水路によって地区まで導水される。

水田かんがい方法は、地区形状・地形勾配、現況水利状況、営農条件、地元意向等から、現況の効率的な用水管理形態の特徴を生かし、自然圧による管網パイプライン方式とする。

一の堰幹線用水路(国営)



4. 計画用水量

(1) かんがい用水

(第10表-1-1)

項 目 系 統 名	種 別	面積(ha)	水 田 か ん が い			水 田 畑 利 用			畑 地 か ん が い			そ の 他		消 費 水 量 (m³／S)	損 失 率 (%)	粗 用 水 量		備 考
		事 業 名	普 通 期	代かき期	面 積 (ha)	一 日 平 均 当 たり 計 画 水 深 (mm／日)	平 均 間 断 日 数 (日)	面 積 (ha)	一 日 平 均 当 たり 計 画 水 深 (mm／日)	平 均 間 断 日 数 (日)	面 積 (ha)	計 画 平 均 単 位 用 水 量 (mm／日)	面 積 (ha)			平 均 (m³／S)	最 大 (m³／S)	
		区画整理事業	計画平均 単位用水量 (mm／日)	計画代かき 単位用水量 (mm／日)														
一の堰頭首工	農 業	144.9	19.0	129.5	144.9	3～4	5	30.2	-	-	-	-	-	代 0.470 普 0.378 代 0.422 普 0.341	10・15 10	0.378 0.375	0.470 0.464	
		143.2	19.0	129.5	143.2	-	-	-	-	-	-	-	-					
計		144.9	-	-	144.9	-	-	30.2	-	-	-	-	-	-	-	0.378	0.470	
		143.2	-	-	143.2	-	-	-	-	-	-	-	-					

(2) 営農飲雑水

該当なしに付き省略

(第10表-1-2)

区 分	利用目的	対 象 面 積 (ha)			日 当 給 水		補 給 回 数	関 係 戸 数	備 考
		事 業 名			単位給水量	最大給水量			
					(ℓ/日)	(ℓ/日)	(回)	(戸)	

5. 水 源 計 画

(1) 水利用計画

該当なしに付き省略

(第10表-2)

項 目 区 分	消費水量	有効雨量	純用水量	祖用水量	現 況 利 用 可 能 水 量			不 足 水 量		水 源 依 存 量		水源工種	備 考
	a	b	c=a-b	d= c/(1- α)	水 源 名	取水地点 利用可能量	ほ場利用 可 能 量	純不足量	全不足 水 量	水 源 名	水 量		α : 損失率
	(千 m^3)	(千 m^3)	(千 m^3)	(千 m^3)		e (千 m^3)	f (千 m^3)	g=c-f (千 m^3)	h=d-e (千 m^3)		(千 m^3)		
													$\alpha = \quad \%$

(2) 用水対策

(ア) 貯水池

該当なしに付き省略

(第10表-3)

項 目 貯 水 池 名		流域面積 (km ²)		か ん が い 面 積(ha)			純貯水量 (千m ³)	利用貯水量 (千m ³)	利用回数 (回)	最大取水量 (m ³ /s)	備 考
				事 業 名							
		直 接	間 接			計					

(イ) 井堰及び自然取入口

該当なしに付き省略

(第10表-4)

項 目 貯 水 施 設 名		河 川 名	流域面積 (km ²)	か ん が い 面 積(ha)			取 水 量 (m ³ /s)		渴 水 量 (m ³ /s)	備 考
				事 業 名						
						計	最 大	平 均		

(ウ) 揚 水 機

該当なしに付き省略

(第10表-5)

項 目 名 称	水 源 名	かんがい面積 (ha)	所要水量 (m ³ /s)		揚 水 機				備 考
			最	大 平 均	実 揚 程 (m)	揚 水 量 (m ³ /s)	台 数 (Kw×台)	全揚水量 (m ³ /s)	
計									

(エ) 用 水 路

(第10表-6)

項 目 名 称	かんがい面積 (ha)		最 大 通 水 量 (m³/ s)	延 長 (Km)	構 造	備 考
	事 業 名					
	区画整理事業	計				
支線用水路	32.3	32.3	0.061～0.085	2.262	ベンチリュム・塩ビ管 塩ビ管	自然圧パイプライン
	31.8	31.8	0.061～0.085	3.081		
小用水路	112.6	112.6	0.009～0.081	8.621	塩ビ管 塩ビ管	自然圧パイプライン
	111.4	111.4	0.009～0.081	6.904		
計	144.9	144.9		10.883		
	143.2	143.2		9.985		

(オ) その他の水源施設

該当なしに付き省略

(3) 水温水質

該当なしに付き省略

第 4 節 排 水 計 画

1. 計画基準雨量

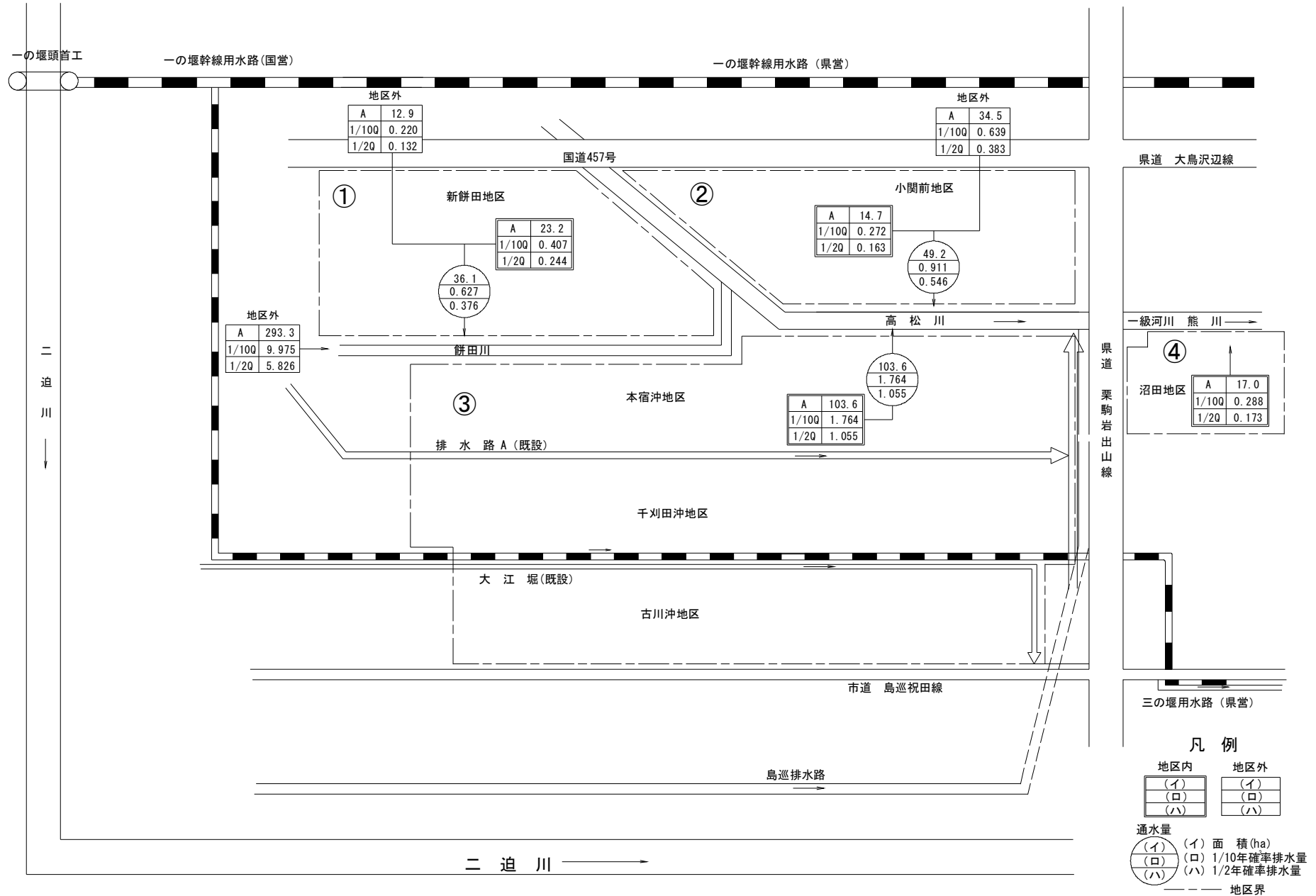
排水諸元は、「築館観測所」における昭和18年～平成26年までの資料により、岩井法にて確率計算された1/2年確率最大日雨量 $R_{24} = 77.8 \text{ mm/日}$ 、1/10年確率最大日雨量 $R_{24} = 129.5 \text{ mm/日}$ を基準雨量として採用する。

確 率 年	最 大 日 雨 量
1/ 2 年確率	77.8 mm
1/10 年確率	129.5 mm

2. 計画排水方式

本地区の排水は、各小排水路・支線排水路等を経て、一級河川熊川へ自然排水される。地区内の支線排水路は開水路（連結平板ブロック）に、末端排水路は開水路（コンクリート水路）及び管水路（塩ビ管）に整備し、汎用化耕地を図る。

3. 計画排水系統



4. 計画排水量

(第 1 1 表－ 1)

項 目 排水系統名	受益面積 (ha)	流 域 面 積 (km ²)		基準雨量 (mm)	降雨による直接単位 流出量(m ³ /S/Km ²)		基 底 流 出 量 (m ³ /S/Km ²)		全排水量(m ³ /S)		単位排水量 (m ³ /S/Km ²)		備 考	
		山 地	平 地		山 地	平 地	山 地	平 地	山 地	平 地		山 地		平 地
										自然排水	機械排水			
新餅田	23. 2	－	3. 294	129. 5	－	1. 101 ～2. 386	－	－	10. 602	－	3. 219	一級河川熊川		
	23. 2	－	3. 294	129. 5	－	1. 101 ～2. 286	－	－	10. 602	－	3. 219			
小関前	14. 6	－	0. 492	129. 5	－	1. 101 ～2. 386	－	－	0. 911	－	1. 852	一級河川熊川		
	14. 7	－	0. 492	129. 5	－	1. 101 ～2. 286	－	－	0. 911	－	1. 852			
高松川	103. 6	－	1. 036	129. 5	－	1. 101 ～2. 386	－	－	1. 764	－	1. 703	一級河川熊川		
	103. 6	－	1. 036	129. 5	－	1. 101 ～2. 286	－	－	1. 764	－	1. 703			
沼田	17. 0	－	0. 170	129. 5	－	1. 101 ～2. 386	－	－	0. 288	－	1. 694	一級河川熊川		
	17. 0	－	0. 170	129. 5	－	1. 101 ～2. 286	－	－	0. 288	－	1. 694			
計	158. 4		4. 992						13. 565					
	158. 5		4. 992						13. 565					

※排水受益面積は一定区域面積記載

5. 排水対策

(1) 排水水門

該当なしに付き省略

(第11表-2)

該当なしに付て省略											(第 1 表 2)	
項 目 名 称	流 域 面 積 (km ²)	受 益 面 積 (ha)			計 画 排 水 量		排 水 本 川			備 考		
		事 業 名			排 水 量 (m ³ /S)	地区内湛水深 (m)	名 称	計画洪水量 (m ³ /S)	計画洪水位 (m)			
				計								

(2) 排水機

該当なしに付き省略

(第11表-3)

該当なしに付て旨略												(第11表 8)	
項 目 名 称	流 域 面 積 (km ²)	受 益 面 積 (ha)			計 画 排 水 量		排 水 機				備 考		
		事 業 名			排 水 量 (m ³ /S)	地区内湛水深 (m)	実 揚 程 (m)	排 水 量 (m ³ /S)	台 数 (台)	全 排 水 量 (m ³ /S)			
				計									

(3) 排水路

(第11表-4)

（第 1 表 - 4）

項 目 名 称	流 域 面 積 (km ²)	受 益 面 積 (ha)		計 画 排 水 量 (m ³ /S)	延 長 (km)	構 造	排 水 本 川			備 考
		事 業 名					名 称	計 画 洪 水 量 (m ³ /S)	計 画 洪 水 位 (m)	
		区画整理事業	計							
支線排水路	3.294 3.294	(23.2) (23.2)	(23.2) (23.2)	10.602 10.602	0.762 0.756	連結平板ブロック 大型連結ブロック	一級河川熊川	-	-	
小排水路	0.007～0.172 0.007～0.172	(0.7～14.9) (0.7～14.9)	(0.7～14.9) (0.7～14.9)	0.013～0.382 0.013～0.382	6.001 6.601	排水フリューム・塩ビ管 排水フリューム・塩ビ管	一級河川熊川	-	-	
承水路	0.003～0.011 0.003～0.011	(0.3～1.1) (0.3～1.1)	(0.3～1.1) (0.3～1.1)	0.014～0.026 0.014～0.026	0.774 1.013	排水フリューム 排水フリューム	一級河川熊川	-	-	
計		158.4 158.5	158.4 158.5		7.537 8.370					

※排水受益面積は一定区域面積記載

(4) そ の 他

該当なしに付き省略

6. 湛 水 検 討

該当なしに付き省略

第 5 節 道 路 計 画

1. 道路及び索道

(1) 道 路

(第12表-1)

項 目 路 線 名	幅(有効) × (m)	延 長 (km)	構 造	既 設 道 路 と の 関 係	備 考
支線道路	5.0(4.0) 5.0(4.0)	10.505 11.716	砂利道	-	橋梁1カ所 (L=15m含む) —
耕作道路	4.0(3.0) 4.0(3.0)	0.962 1.811	砂利道	-	
計		11.467 13.527			

(2) 索 道

該当なしに付き省略

(第12表-2)

項 目 路 線 名	能 力(t/hr)	延 長(m)	接 続 道 路 名	備 考

2. 路線配置図



第 6 節 農用地造成計画

1. 農用地造成計画

(1) 農用地造成計画

該当なしに付き省略

(第13表-1)

項 目 土地利用区分	主 要 作 物	自 然 傾 斜	耕 地 の 形 状	標準区画の形状	備 考

(2) 末端道水路配置図

該当なしに付き省略

2. 土 壤 改 良

該当なしに付き省略

(第13表-2)

項 目 区 分	面 積 (ha)	土壌統(区)名	P H		置換酸度 (Y1)	りん酸吸収 係 数 (mg/100ml)	ha 当 た り 所 要 量			備 考
			H ₂ O	K C L			石 灰 (t)	りん酸質 資材(t)	有 機 質 資材(t)	

第 7 節 洪水調節計画

1. 計画基準雨量

該当なしに付き省略

2. 計画洪水量及び調節量

該当なしに付き省略

(第14表-1)

地 点	流 域 積 (km ²)	洪 水 到達時間 (hr)	計 画 洪 水 量 (m ³ /S)	安 全 洪 水 量 (m ³ /S)	必 要 調 節 量 (m ³ /S)	ピーク時 調 節 量 (m ³ /S)	ピーク時 調節後流量 (m ³ /S)	調 節 後 最大流量 (m ³ /S)	調 節 前 後 の 最大流量の差 (m ³ /S)	最大調節量 (m ³ /S)

3. 貯 水 池

該当なしに付き省略

(第14表-2)

項 目 貯水池名	流 域 面 積 (k m ²)		計画洪水量 (m ³ /S)	貯 水 量 (千m ³)			計画調節 流 量 (m ³ /S)	可能調節流量 (m ³ /S)	備 考
	直 接	間 接		有 効	洪水調節容量	他 目 的			

4. 洪水調節検討

(1) 河川改修計画との関係

該当なしに付き省略

(2) 洪水調節が下流に及ぼす影響

該当なしに付き省略

(3) 計画基準雨量以外の降雨についての検討

該当なしに付き省略

5. 管理計画

(1) 管理機構

該当なしに付き省略

(2) ダム管理操作上の各種基準

該当なしに付き省略

(3) 洪水調節要領

該当なしに付き省略

第 8 節 干 拓 計 画

該当なしに付き省略

(第 15 表)

項 目	延 長 (m)	計画高潮 (水) 位 (T. P. m)	風向及び対岸距離 (km)	風 速 (m/s)	気 圧 (hPa)	備 考
名 称						

第 9 節 農用地整備計画

1. 区画整理

(1) 区画の形状

(第16表-1)

長 辺 × 短 辺 (m)	区 画 面 積 (ha)	全 体 面 積 (ha)	割 合 (%)	田 面 差 (m)	備 考
147.0 × 76.0	1.0ha以上	111.0 110.3	76.6 77.0	0.0~0.4未満 0.0~0.4未満	
147.0 × 38.0	0.5~1.0ha未満	30.4 26.8	21.0 18.7	〃 〃	
147.0 × 25.0	0.3~0.5ha未満	3.2 4.9	2.2 3.4	〃 〃	
不 整 形	0.3未満	0.3 1.2	0.2 0.8	— —	
	小 計	144.9 143.2	100.0 99.9		
普 通 畑	—	0.0 0.1	0.0 0.1	— —	
計		144.9 143.3	100.0 100.0	—	

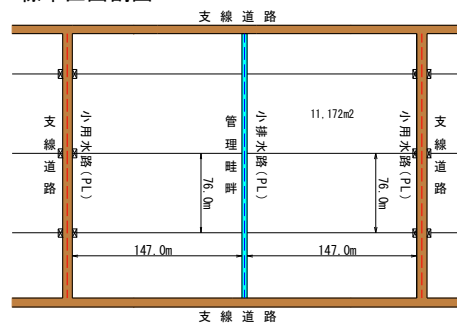
(2) 表土扱い

(第16表-2)

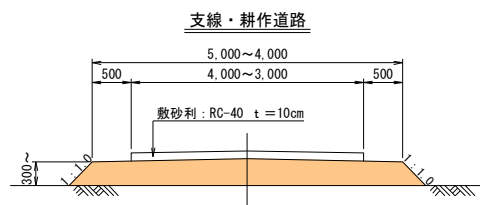
面 積 (ha)	表 土 扱 い 要 否 の 理 由	扱 い 深 (cm)	土 量 (m³)	備 考
11.5 1.2	作土及び有効土層の確保	15 20	17,250 2,400	

(3) 末端道水路配置図

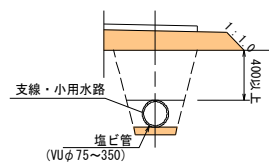
標準区画割図



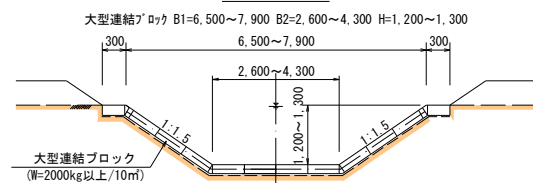
標準構造図



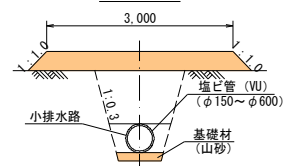
用水パイプライン
支線パイプライン VUφ250~350



支線排水路

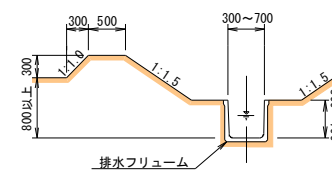


小排水路

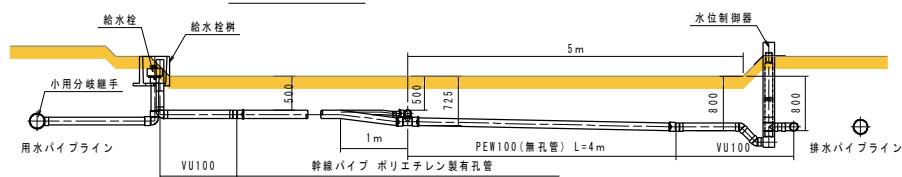


小排・承水路

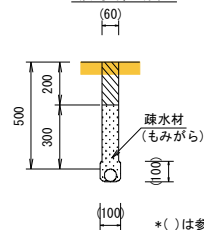
小排水路 HF-H500×B500~H700×B700
承水路 HF-H300×B300~H400×B400



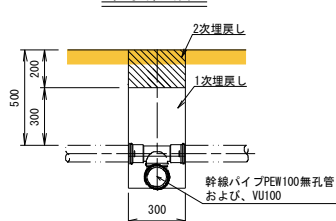
暗渠排水断面



吸水渠断面



集水渠断面



*()は参考値

2. 暗渠排水

(1) 暗渠排水

(第16表-3-1)

項 目 区 分	面 積 (ha)		土 壤 統 (区) 分	基 準 雨 量 (mm/日)	単 位 排 水 量 (m³/S/ha)	計 画 後 の 位 地 下 水 (m)	集 水 渠 出 口 以 下 の 排 水 方 法	備 考
	事 業 名 区画整理事業	計						
本暗渠	144.9	144.9	泥炭土壌強粘土還元型 (A2) 強グライ土壌強粘土還元型 (D30) 強グライ土壌強粘土斑鉄型 (D31) グライ土壌壤土型 (E43) 灰色土壌強粘土マンガン型 (F51)	129.5	0.00347	0.5	小排水路へ 自然排水	地表残留水 30mm/日
	143.2	143.2		129.5	0.00347	0.5		
計	144.9	144.9						
	143.2	143.2						

(2) 心土破碎

該当なしに付き省略

(第16表-3-2)

項 目 区 分	面 積 (ha)		土 壤 統 (区) 分	土 壤 硬 度	備 考
	事 業 名	計			
計					

3. 客 土

該当なしに付き省略

(第16表-4)

項 目 区 分	面 積 (ha)		土 壤 統 (区) 名	減 水 深 (mm/日)		作土の厚さ (cm)		10a当たり 客 土 量 (m³)	土 壤 の 性 質		備 考
	事 業 名	計		現 況 平 均	計 画 平 均	現 況 平 均	計 画 平 均		受 益 地 (%)	採土地(客土材料) (%)	
計											

4. 農地保全

(1) 防災林

該当なしに付き省略

(第16表-5-1)

項 目 区 分	最 大 風 速 (m/S)	幅 (m)	間 隔 (m)	備 考

(2) 排水工

該当なしに付き省略

(第16表-5-2)

項 目 名 称	基準雨量 (mm/日)	土 性	流出率	排 水 量		備 考
				単位排水量 (m ³ /S/ha)	全排水量 (m ³ /S)	

(3) 侵食（崩壊）防止工

該当なしに付き省略

(第16表-5-3)

項 目 施 設 名	位 置	支 配 面 積 (ha)	機 能	備 考
計				

第 10 節 老朽ため池改修計画

1. 洪水吐改修計画

(1) 計画基準雨量

該当なしに付き省略

(2) 計画洪水量

該当なしに付き省略

2. 堤体補強計画

該当なしに付き省略

3. 取水施設改修計画

該当なしに付き省略

第 5 章 主 要 工 事 計 画

第 1 節 用 水 施 設

1. 貯 水 池

該当なしに付き省略

(第 17 表－1)

図 2-1-1 河川整備計画（第 1 次）									
名 称				位 置					備 考
堤 体	型 式	流域面積 (Km ²)		堤 高 (m)	堤 長 (m)	堤 体 積 (千m ³)	基礎基盤 地 質	貯 水 量 (千m ³)	
		直 接	間 接					総貯水量	有効貯水量
洪水吐	型 式	洪 水 量 (m ³ /S)		取水施設	型 式	取 水 量 (m ³ /S)	放 流 施 設	型 式	放 流 量 (m ³ /S)

2. 頭 首 工

該当なしに付き省略

(第 17 表－2)

取 引 名 義 者							
---	--	--	--	--	--	--	--

3. 揚 水 機

該当なしに付き省略

(第 17 表－3)

項 目 名 称	位 置	揚水量 (m ³ /S)	揚 程 (m)		揚 水 機			原 動 機			備 考
			全 揚 程	実 揚 程	型 式	口 径 (mm)	台 数 (台)	型 式	動 力 (Kw)	台 数 (台)	
計											

4. 用 水 路

該当なしに付き省略

(第17表-4)

項 目 水 路 名	かんがい面積 (ha)		通 水 量 (m³/S)	延 長 (km)			構 造	勾 配	主 要 構 造 物	備 考
	事 業 名	計		開 き よ	トンネル そ の 他	計				
計										

5. その他かんがい施設

該当なしに付き省略

第 2 節 排 水 施 設

1. 排水水門

該当なしに付き省略

(第18表-1)

項 目 名 称	位 置	型 式	構 造	内 水 位 (m)	外 水 位 (m)	排 水 量 (m³/S)	備 考

2. 排 水 機

該当なしに付き省略

(第18表-2)

項 目 名 称	位 置	排 水 量 (m³/S)	揚 程 (m)		排 水 機			原 動 機			備 考
			全 揚 程	実 揚 程	型 式	口 径 (mm)	台 数 (台)	型 式	動 力 ()	台 数 (台)	

3. 排水路

該当なしに付き省略

(第18表-3)

項 目 水 路 名	受 益 面 積 (ha)		排 水 量 (m³/S)	延 長 (km)			構 造	勾 配	主 要 構 造 物	備 考
	事 業 名			開 き よ	トンネル そ の 他	計				
		計								
計										

4. その他排水施設

該当なしに付き省略

第3節 道路及び索道

1. 道路

(1) 道路の総括表

該当なしに付き省略

(第19表-1)

項 目 区分	路線名	幅(有効) × (m)	延長 (km)	構造	付帯構造物			最急 こう配 (%)	同左の 延長 (m)	最小曲線 半径 (m)	備考
					名称	構造	数量 (箇所)				
計											

(2) 道路主要構造物

該当なしに付き省略

(第19表-2)

項 目 路線名	名称	規模構造	延長 (m)	箇所数 (箇所)	備考

2. 索道
該当なしに付き省略

(第19表-3)

項目 名称	延長 (m)	高低差 (m)	能力 (t/hr)	原動機		備考
				型式	動力 ()	

第4節 農用地造成

1. 農用地造成

(1) 抜根
該当なしに付き省略

(第20表-1)

区分	項目	樹種	樹径 (cm)	ha当たり本数 (本/ha)	面積 (ha)	工法	備考

(2) 除礫
該当なしに付き省略

(第20表-2)

区分	項目	対象土層の厚さ (cm)	ha当たり標準除礫量 (m ³ /ha)	面積 (ha)	工法	備考

(3) 開墾作業
該当なしに付き省略

(第20表-3)

区分		項目	面積 (ha)	工 法	備 考
地 目	造 成 工 法				

(4) 地目変換
該当なしに付き省略

(第20表-4)

区分	項目	面積 (ha)	工法	備考

(5) 末端用水路等
該当なしに付き省略

(第20表-5)

区 分	項 目	数 量	規 模	構 造	備 考

(6) 末端排水路等
該当なしに付き省略

(第20表-6)

区 分	項 目	数 量	規 模	構 造	備 考

2. 土壌改良

該当なしに付き省略

(第20表-7)

区 分	項 目	面 積 (ha)	石 灰 量 (t)	りん酸質資材量 (t)	有機質資材量 (t)	備 考

第 5 節 洪水調節施設

1. 貯 水 池

該当なしに付き省略

2. 頭首工及び導水路

(1) 頭 首 工
該当なしに付き省略

(第21表-2)

名 称			位 置				備 考	
型 式	集 水 面 積 (km ²)	堤 高 (m)	堤 長 (m)			計画洪水位 (m)		付帯設備
			固定部	可動部	計			

(2) 導水路

該当なしに付き省略

(第21表-3)

水路名	通水量 (m ³ /S)	延長 (m)			構造	勾配	備考
		トンネル	その他	計			

第6節 干拓施設

1. 堤防

該当なしに付き省略

(第22表-1)

項目 名称	型式	延長 (m)	構造					原地盤標高 (m)		備考
			堤頂標高 (m)	盛土幅 (m)	盛土標高 及び舗装	上流斜面	下流斜面	平均	最低	

2. 潮止め

該当なしに付き省略

(第22表-2)

項目 名称	工法	幅員 (m)	敷高標高 (m)	潮止め堤標高 (m)	最大流速 (m/s)	床固め構造	備考

3. 付属施設

該当なしに付き省略

4. 埋立

該当なしに付き省略

(第22表-3)

項目 区分	面積 (ha)	埋立標高 (m)	埋立土量 (m ³)	施工方法	備考

第 7 節 農用地整備施設

1. 区画整理

(1) 区画整理

(第23表-1)

工 区 名	面 積 (ha)	整 地 工		表 土 扱 い		備 考
		標準区画	土 量 (m ³)	面 積 (ha)	土 量 (m ³)	
稲屋敷・袋	144.9	147.0×76.0	-	11.5	17,250	
	143.3	147.0×76.0	-	1.2	2,400	

(2) 末端用水路等

(第23表-2)

区 分 \ 項 目	数 量 (ヶ所、km)	規 模 (ha)	構 造	備 考
用水路	10.883 9.985	144.9 143.2	ベンチフリューム・塩ビ管 塩ビ管	自然圧パイプライン

(3) 末端排水路等

(第23表-3)

区 分 \ 項 目	数 量 (km)	規 模 (ha)	構 造	備 考
排水路	7.537 8.370	158.4 158.5	連結平板、排水フリューム、塩ビ管 大型連結、排水フリューム、塩ビ管	

(4) 末端道路等

(第23表-4)

区 分 \ 項 目	数 量 (km)	規 模 (路線)	構 造	備 考
道 路	11.467 13.527	44 49	砂 利 砂 利	高松川農道橋1基 —

2. 暗渠排水

(1) 暗渠排水

(第23表-4-1)

項 目 区 分	面 積 (ha)		集 水 渠				吸 水 渠						集水渠出口以下の排水施設			備 考
	事 業 名		勾 配	管 種	管 径 (mm)	延 長 (m/ha)	勾 配	管 種	管 径 (mm)	深 さ (m)	間 隔 (m)	延 長 (m/ha)	名称	構 造	数 量 (m/ha)	
	区画整理事業	計														
本 暗 渠	144.9	144.9	1/600	ポリ管	φ100	86	Level	ポリ管	φ50 ~100	0.5	10	1,128	小排水路 既設排水路	VU管	-	
	143.2	143.2	1/600	ポリ管	φ100	86	Level	ポリ管	φ50 ~100	0.5	10	1,128	小排水路 既設排水路	VU管	-	
計	144.9	144.9														
	143.2	143.2														

(2) 心土破碎

該当なしに付き省略

(第23表-4-2)

区 分	項 目	対象土層の厚さ (cm)	ha当たり標準除礫量 (m ³ /ha)	面 積 (ha)	工 法	備 考

3. 客 土

該当なしに付き省略

(第23表-5)

区 分	項 目	面 積 (ha)		客入土量 (m ³)	土取場土量 (m ³)	運搬距離 (km)	運搬方法	備 考
		事 業 名	計					
計								

4. 除 礫

該当なしに付き省略

(第23表-6)

区 分	項 目	対象土層の厚さ (cm)	ha当たり標準除礫量 (m ³ /ha)	面 積 (ha)	工 法	備 考

5. 農地保全

(1) 防 風 林

該当なしに付き省略

(第23表-7)

区 分	項 目	幅 (m)	延 長 (m)	面 積 (ha)	樹 種	植栽本数 (本)	備 考

(2) 排 水 路

該当なしに付き省略

(第23表-8)

区 分	項 目	延 長 (m)	流 量 (m ³ /S)	構 造	備 考

(3) 侵食防止工

該当なしに付き省略

(第23表-9)

区 分 \ 項 目	構 造	数 量	備 考

第 8 節 老朽ため池改修施設

1. 貯 水 池

該当なしに付き省略

(第24表)

名 称					位 置			
堤 体	形 式	流 域 (Km ²)	堤 高 (m)	堤 長 (m)	堤体積 (m ³)	堤頂幅 (m)	貯水量 (千m ³)	備 考
洪 水 吐	形 式	洪水量 (m ³ /S)	規 模 (m)	備 考	取水施設	形 式	取水量 (m ³ /S)	備 考

2. 堤体補強施設

(1) のり面保護施設

該当なしに付き省略

(2) 漏水防止工

該当なしに付き省略

第 6 章 附 帯 工 事 計 画

該当なしに付き省略

第 7 章 工 事 の 着 手 及 び 完 了 の 予 定 時 期

着 工 : 平成 30 年度

完 了 : 令和 7 年度

第 8 章 環 境 と 調 和 へ の 配 慮

本地区は、今回の事業実施に際しては、お助け工と魚道を設置し小排水路と水田の連続性の確保を行い生物の生息・生育環境の保全を図り、環境との調和に配慮するものとする。さらに、施工中の建設機械は低排出型・低騒音型を使用し環境への影響を最小限にとどめる。

第 9 章 換 地 計 画 の 概 要

第 1 節 換地計画を作成する上での基本的な考え方

本地区の換地計画は、工事によって土地の区画が変更されることに伴い、土地所有権及びその他の権利確定と、農用地の集団化その他、農業経営の合理化を達成するため樹立するものである。

このため、換地計画に当たっては従前の土地を基準とし、権利の明確化を図り集落単位の集団化と更に個人別集団化を図ることとする。

第 2 節 換地区の設定

1. 換地区の名称, 所在, 面積

(第 2 5 表 - 1)

換地区名	換 地 区 の 所 在	面 積 (ha)
稲屋敷・袋	栗原市栗駒・鶯沢	158.4 158.5

2. 換地区を設定する理由

該当なしに付き省略

第 3 節 換地計画樹立の基本方針

1. 従前地の土地の地積の基準

(第25表-2)

換地区名	地 積 の 基 準
稲屋敷・袋	換地交付の基準とする従前の土地の地積は、土地改良事業計画決定の日の登記簿地積とする。ただし、上記の日から3ヶ月以内に測量士、測量士補又は土地家屋調査士の測量した実測図及び隣接所有者の同意書を添付して申し出があった場合、若しくはそれと同等の実測図面が提出され、換地委員会が適当と認めた場合は、その申し出があった地積とする。

2. 用途別予定地積

(単位：ha) (第25表-3)

用途 (取得予定者) 前 後 換地区名		非農用地区域外に換地する土地											非農用地区域に換地する土地											機能交換に係る土地				一般 国 公 有 地	総 合 計			
		田	畑	山林・ 原野	そ の 他	通常事業施工地域に 含める土地 (令第1条の9()書き)			計	本事業によっ て生ずる土 地改良施 設用地			合 計	特定用途用地			異 種 目 換 地	創設非農用地						合 計	国	県	市 町 村 他			合 計		
						土 地 改 良	施 設 其 他	小 計		改 良 区	そ の 他	計		宅 地	そ の 他	計		農 業 経 営 合 理 化	施 設 用 地	生 活 上 ・ 経 営 上	必 要 な 施 設 用 地	公 用 ・ 公 共 用	施 設 用 地								宅 地 等	計
稲 屋 敷 ・ 袋	従前の土地	145.9	0.1	-	-	-	-	-	146.0	-	-	-	146.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0	0.0	12.4	12.4	-	158.4		
		146.0	0.1	-	-	-	-	-	146.1	-	-	-	146.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.1	0.0	12.3	12.4	-	158.5		
	換地	144.9	0.0	-	-	-	-	-	144.9	-	-	-	144.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0	0.0	13.5	13.5	-	158.4		
		143.2	0.1	-	-	-	-	-	143.3	-	-	-	143.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.1	0.0	15.1	15.2	-	158.5		
合 計	従前の土地	145.9	0.1	-	-	-	-	-	146.0	-	-	-	146.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0	0.0	12.4	12.4	-	158.4		
		146.0	0.1	-	-	-	-	-	146.1	-	-	-	146.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.1	0.0	12.3	12.4	-	158.5		
	換地	144.9	0.0	-	-	-	-	-	144.9	-	-	-	144.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0	0.0	13.5	13.5	-	158.4		
		143.2	0.1	-	-	-	-	-	143.3	-	-	-	143.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.1	0.0	15.1	15.2	-	158.5		

3. 農地集団化の方針

(第25表-4)

区分 換地区名	地帯別、グループ別 団地の設定	個人別換地の方法		
		位置の選択方法	1戸当たり目標団地数	区画畦畔の取り扱い
稲屋敷・袋	集落別の集団化とともに担い手農家の所有農地が面的集積の核となるように集団化を図り、大区画の効用を十分に発揮できるように配慮する。	個人別の位置については、各人の従前の土地の利用等を考慮して集団化を図るが、担い手農家による生産集積が行われ易いように集団化を図り、大区画の効用を十分発揮できるように配慮するものとする。	1.5 団地	区画畦畔の取り扱いについては、大区画の機能を損なわないよう固定畦畔とし、分割する場合には畦畔を築立せず杭による分割表示を基本とする。

4. 非農用地換地の方法

該当なしに付き省略

(第25表-5)

区分 換地区名	用途	非農用地区域の位置の概略	面積 (㎡)	換地の手法	換地取得予定者	その他
	計					

第4節 土地の評価及び清算の方法

1. 評価の方法

従前の評価は、それぞれの土地の自然条件及び利用条件について点数により評価し、その点数ごとの評価額を定めて、従前の土地と換地の土地条件が見合っているか判断する。従前の土地の中から農業条件がそろった最もよい土地を標準地として選定し、その標準地との比較は、土地の自然条件が及び利用条件の評価項目を定め、その条件差を考慮して増減点評価する標準地比準評価方式により評価する。

2. 清算の方法

清算は、従前の土地の評価総額と換地の評価総額との差額（増価額）を地積に比例して、各従前の土地に按分し、この按分額とその従前の土地の価額とを合計して換地交付基準額を定め、これと換地額の価額との差を徴収、交付する比例地積清算方式によって行う。

第 5 節 換地計画樹立の年度計画

(第 25 表 - 6)

区 分 換 地 区 名	一 時 利 用 地 定 の 予 定 年 度	換地計画の 決 定 年 度	換 地 処 分 予 定 年 度	備 考
稲屋敷・袋	平成 31 年度 から 令和 6 年度 まで	令和 7 年度	令和 7 年度	

第 6 節 換地処分の時期に関する特則

地区全体の区画整理工事が完了し、確定測量が行われた時は、土地改良法第 89 条の 2 第 10 項において準用する同法第 54 条第 2 項本文の規定ただし書きに基づき換地処分を行うことができる。

第 10 章 事業費の総額及び内訳

(第 26 表)

種 目		事 業 量	事 業 費 (千円)	備 考
区 分				
区 画 整 理 工	A= 158.4 158.5 ha	1,439,000 1,772,000	H29年度 R6年度	
暗 渠 排 水 工	A= 144.9 143.2 ha	445,000 241,000		
客 土 工	A= - - ha	- -		
測 量 試 験 費	一 式	190,000 162,000		
用地買収補償費	一 式	79,000 15,000		
換 地 費	一 式	116,000 120,000		
小 計		2,269,000 2,310,000		
事 務 的 経 費	一 式	113,000 115,300		
計		2,382,000 2,425,300		
関連事業（参考）				
	計			

第 11 章 効 用

(第 27 表)

事業名	項 目	年総効果（便益）額	年増加農業所得額	備 考
	区 別	(千円)	(千円)	
区画整理事業	作物生産効果	49,861 61,195	13,039 2,781	H29年度単価 R6年度単価
	営農経費節減効果	137,730 195,202	142,128 198,831	
	維持管理費節減効果	3,533 1,855	8,736 10,488	
	耕作放棄防止効果	0 5	- -	
	景観・環境保全効果	- 1,297	- -	
	国産農産物安定供給効果	9,406 14,345	- -	
	計	200,530 273,899	163,903 212,100	

総費用額 2,800 百万円
 (参考) 総便益額 3,629 百万円

総費用額 3,995 百万円
 (参考) 総便益額 5,051 百万円

第 12 章 関 連 す る 事 業

(第 28 表)

区 分	事業名	事業主体	受益面積 (ha)	備 考
異種	国営かんがい排水事業 迫川上流地区 (S49～H8)	国	10,437.7 (144.9) 10,437.7 (143.2)	【関連事業】ダム、頭首工、幹線用水路
異種	国附県営かんがい排水事業 迫川上流4期地区 (S63～H16)	宮城県	989.0 (144.9) 989.0 (143.2)	【関連事業】用水路

() 地区内受益及び流域

第 13 章 現 況 ・ 計 画 図 面

1. 計画一般図
2. 計画平面図
3. 土地利用計画図
4. 変更内容図

農業競争力強化農地整備事業(農地整備事業(経営体育成型))

計画一般図

稲屋敷・袋地区

S=1/50,000

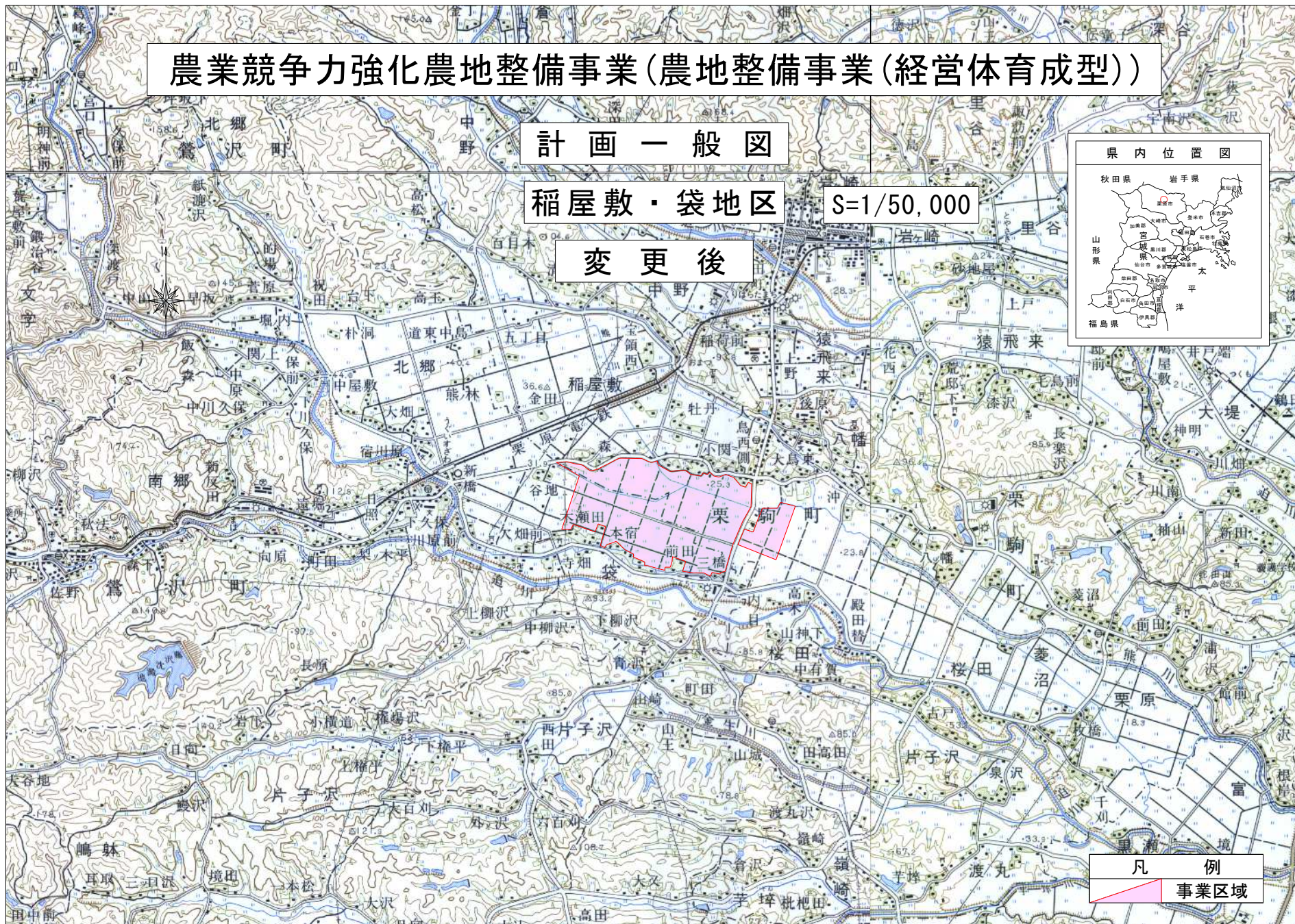
変更後

県内位置図



凡 例

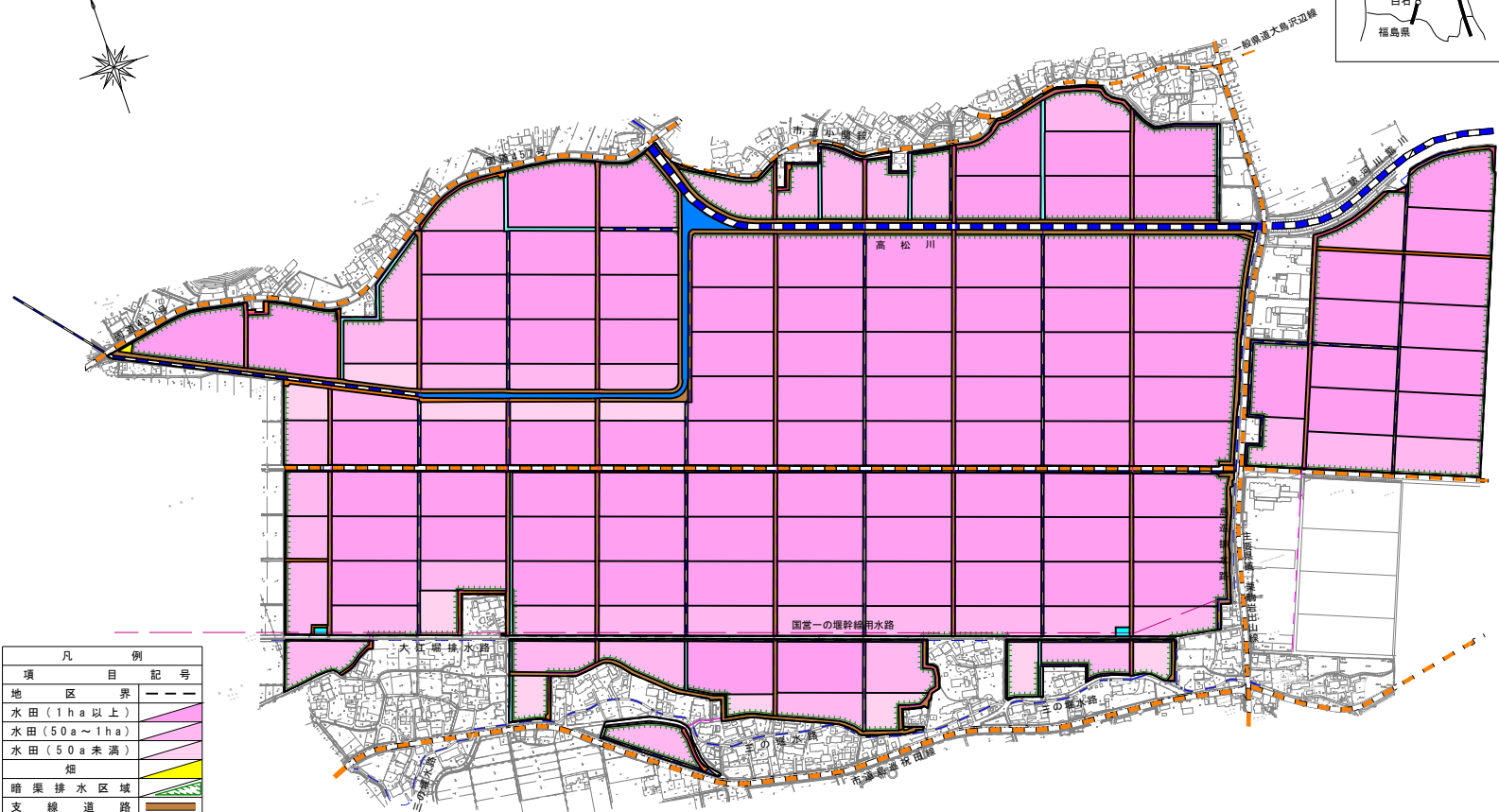
事業区域



農業競争力強化農地整備事業 農地整備事業（経営体育成型）稲屋敷・袋地区

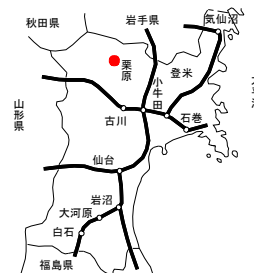
計画平面図

変更後

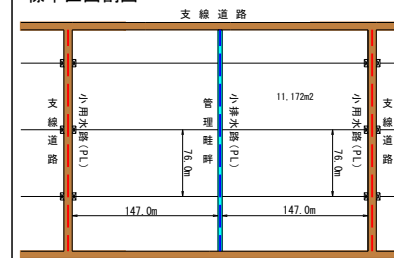


凡 例		
項 目	記 号	
地 区 界	---	
水 田 (1ha 以上)		
水 田 (50a ~ 1ha)		
水 田 (50a 未満)		
畑		
暗 渠 排 水 区 域		
支 線 道 路		
耕 作 道 路		
用 水 バ イ ブ ラ イ ン		
支 線 排 水 路		
小 排 水 路		
承 水 路		
排 水 バ イ ブ ラ イ ン		
既 設 道 路		
既 設 排 水 路		
一 の 堰 幹 線 用 水 路		

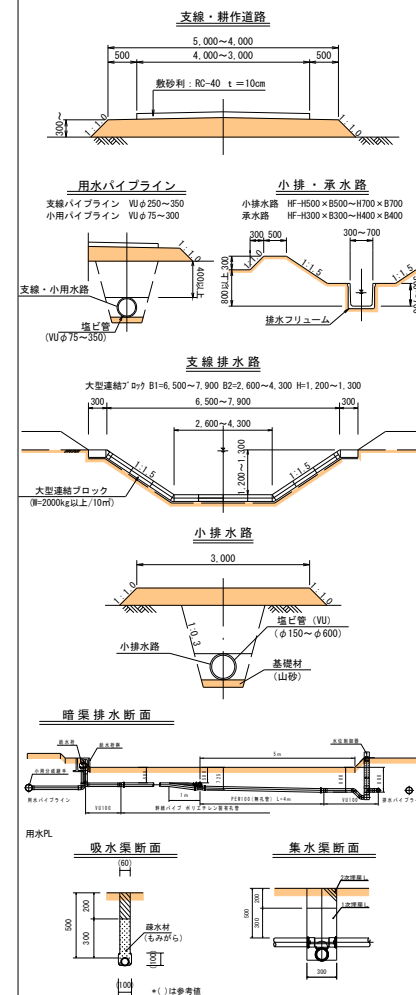
位置図



標準区画図



標準構造図



農業競争力強化農地整備事業（農地整備事業（経営体育成型））

農振土地利用計画図

稲屋敷・袋地区

S=1/50,000

変更後



凡 例	
	行政区域
	農振区域境界
	農用地区分
	農用地区分
	農用地区分
	農用地区分
	農用地区分
	本地区

農業競争力強化農地整備事業（農地整備事業）
稲屋敷・袋地区

変更内容図

【地積（地区面積）の変更】

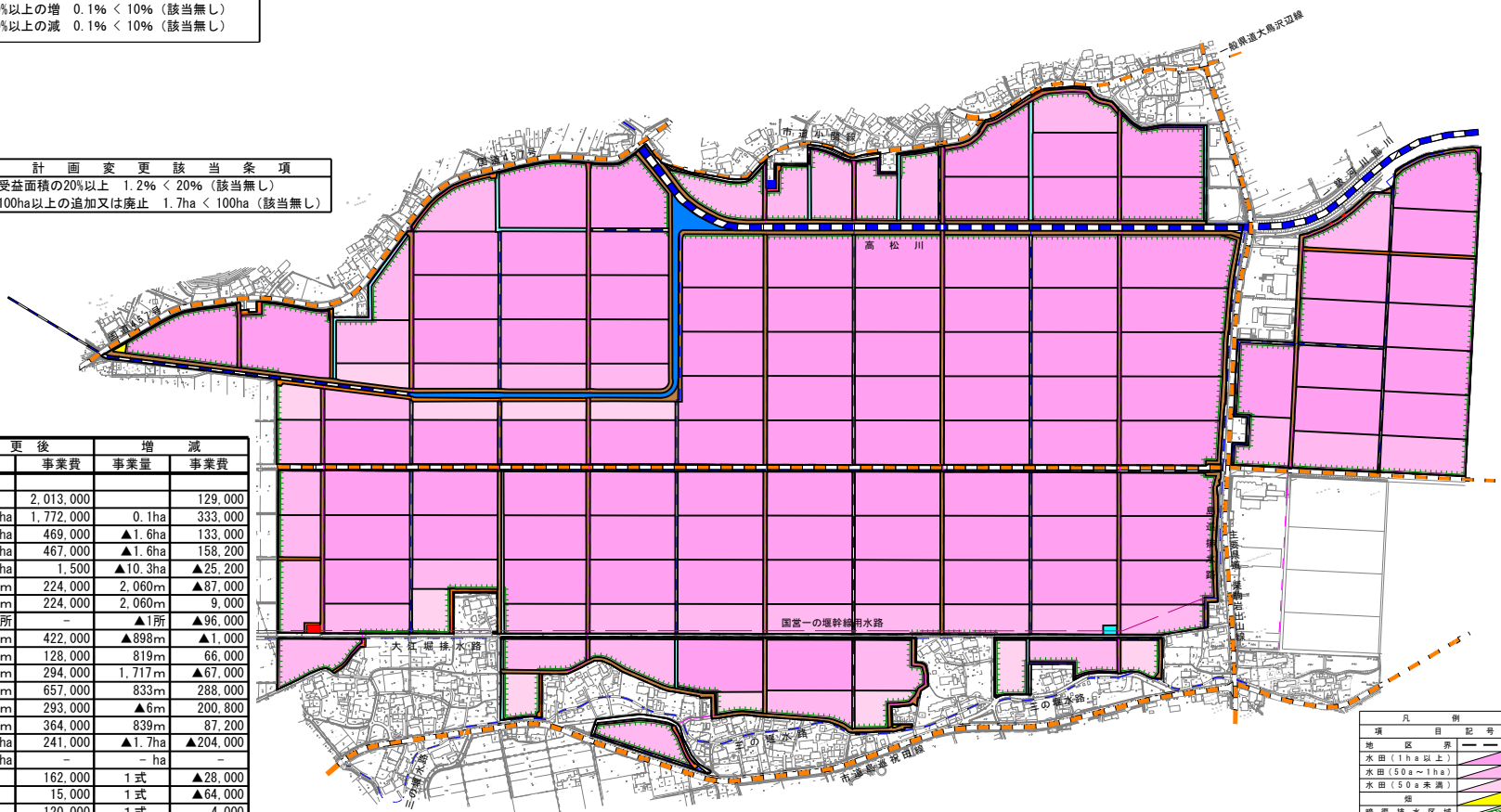
地区面積	A= 158.4ha（変更前）	計 画 変 更 該 当 条 項
地区面積	A= 158.5ha（変更後）	
	A= 0.1haの増	
地区編入A=0.0ha+精査増A=0.2ha	地積の10%以上の増 0.1% < 10%（該当無し）	
地区除外A=▲0.0ha+精査減A=▲0.1ha	地積の10%以上の減 0.1% < 10%（該当無し）	

凡 例		
項 目	記 号	
地 区 界	—	
地 区 編 入	—	
地 区 除 外	—	

【主要工事計画の変更】

	変 更 前	変 更 後	増 減	計 画 変 更 該 当 条 項
暗渠排水	144.9ha	143.2ha	▲1.7ha	受益面積の20%以上 1.2% < 20%（該当無し） 100ha以上の追加又は廃止 1.7ha < 100ha（該当無し）

工 種	変 更 前		変 更 後		増 減	
	事業量	事業費	事業量	事業費	事業量	事業費
純工事費		1,884,000		2,013,000		129,000
1. 区画整理	158.4ha	1,439,000	158.5ha	1,772,000	0.1ha	333,000
①整地工	144.9ha	336,000	143.3ha	469,000	▲1.6ha	133,000
整地	144.9ha	309,000	143.3ha	467,000	▲1.6ha	158,200
表土扱い	11.5ha	26,700	1.2ha	1,500	▲10.3ha	▲25,200
②道路工	11,467m	311,000	13,527m	224,000	2,060m	▲87,000
支線	11,467m	215,000	13,527m	224,000	2,060m	9,000
橋梁工	1所	96,000	— 所	—	▲1所	▲96,000
③用水路工	10,883m	423,000	9,985m	422,000	▲898m	▲1,000
支線	2,262m	62,000	3,081m	128,000	819m	66,000
小	8,621m	361,000	6,904m	294,000	1,717m	▲67,000
④排水路工	7,537m	369,000	8,370m	657,000	833m	288,000
支線	762m	92,000	756m	293,000	▲6m	200,800
小	6,775m	276,000	7,614m	364,000	839m	87,200
2. 暗渠排水	144.9ha	445,000	143.2ha	241,000	▲1.7ha	▲204,000
3. 客土	— ha	—	— ha	—	— ha	—
測量試験費	1 式	190,000	1 式	162,000	1 式	▲28,000
用地補償費	1 式	79,000	1 式	15,000	1 式	▲64,000
換地費	1 式	116,000	1 式	120,000	1 式	4,000
営繕費	1 式	—	1 式	—	1 式	—
その他経費小計		385,000		297,000		▲88,000
合 計		2,269,000		2,310,000		41,000
事務的経費	1 式	113,000	1 式	115,300	1 式	2,300
生産基盤合計		2,382,000		2,425,300		43,300



凡 例		
項 目	記 号	
地 区 界	—	
水 田（1ha以上）	—	
水 田（50a～1ha）	—	
水 田（50a未満）	—	
畑	—	
暗渠排水区域	—	
支 線 道 路	—	
幹 線 道 路	—	
用水パイプライン	—	
支線排水路	—	
小 排 水 路	—	
承 水 路	—	
排水パイプライン	—	
既 設 道 路	—	
既 設 排 水 路	—	
一の堰幹線用水路	—	